

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事 （南一カワセミ舎）

設計図

山梨建築設計監理事業協同組合

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備
(建築主体) 工事（南―カワセミ舎）設計図

令和 年 月 (全 枚)

仕 様 書

I 工事概要

敷地所在地	山梨県甲府市太田町10-1
都市計画区域	市街化区域
防火指定	なし
その他の地域地区	法22条区域
道路	大手二丁目浅原橋線
敷地面積	
用途地域	第2種住居地域
建坪率	60%
容積率	200%
建物の主要用途	博物館
工事の種類	新築
棟数	1棟
構造・階数	S造 平家建て
建築面積	11.99m2
延べ床面積	11.99m2
最高の高さ	3.40m
最高の軒高さ	3.40m
消防法上の有窓階・無窓階	
下水の放流形式	下水

工事種目

図示の内容全て

II 工事範囲

※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。

・「3. 工事種目」のうち の工事範囲は下記表のとおりとする。

ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

仮設工事	工事範囲全て
土工事	
地業工事	
鉄筋工事	
コンクリート工事	
鉄骨工事	
8 コンクリートブロック・ALCパネル 押出成形セメント板工事	
9 防水工事	
10 石工事	
11 タイル工事	
12 木工事	
13 屋根及びとい工事	
14 金属工事	
15 左官工事	
16 建具工事	
17 カーテンウォール工事	
18 塗装工事	
19 内装工事	
20 ユニット及びその他の工事	

III 建築工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下、「標準仕」という。）による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、印の付いたものを適用する。

印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。

印と印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(4) 特記事項に記載の（別 ）は（5.3.7）による別図「各部配筋」の当該項目を示す。

(5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。

(6) 印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。

章

一般共通事項

項目

特記事項

1 適用基準等

建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部建築課監修 最新版）
工事写真の撮り方（改訂第3版）建築編（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）

2 工事実績情報の登録

※適用する

3 施工計画書

工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた施工計画書を作成し、監督職員に提出する。
施工計画の内容を変更する必要がある場合は、監督職員に報告するとともに、施工に支障がないよう適切な措置を講ずる。

4 電気保安技術者

工事現場におく電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。
・要
・不要

5 施工条件

工事着手については監督職員と協議し着手する。
共A-05参考工程表を参照

6 発生材の処理等

※現場説明書による 構外搬出適切処理

7 建築材料等

本工事に使用する材料等は、設計図面に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の（1）～（6）の事項を満たすものとする。
(1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること
(2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
(3) 安定的な供給が可能であること
(4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
(5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
(6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図面に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（社）公共建築協会 他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承諾を受ける。

8 化学物質を放散する
建築材料等

建築材料の使用制限
建築材料等について、規制の対象となる範囲は下地、仕上げ材共にF☆☆☆☆または規制対象外の建材を用いることとし、該当する材料が無い場合は監督職員の承諾を受けF☆☆☆☆のものを採用するを含む）を使用すること。

9 特別な材料の工法

標仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

10 技能士

通用工事種別

技能検定の職種

鉄筋工事

鉄筋施工（鉄筋組立て作業）

コンクリート工事

型枠施工

鉄骨工事

とび

ブロック・ALCパネル工事

ブロック建築
ALCパネル施工

防水工事

アスファルト防水工事作業
合成ゴム系シート防水工事作業
塗膜防水工事作業
シーリング防水工事作業

石工事

石材施工（石張り施工）

タイル工事

タイル張り

木工事

建築大工

屋根及びとい工事

建築板金（内外装板金作業）

金属工事

内装仕上げ施工（鋼製下地工事作業）

左官工事

左官

建具工事

サッシ施工
ガラス施工
自動ドア施工

カーテンウォール工事

カーテンウォール施工
サッシ施工
ガラス施工

塗装工事

塗装（建築塗装作業）

内装工事

プラスチック系床仕上げ工事作業
ボード仕上げ工事作業
表装（壁装作業）

補修工事

造園

2 仮設工事

1 監督職員事務所

※設ける
規模
1号
2号
3号
4号
5号

2 工事用水

※設けない
備品（必要備品は適宜設置）

3 工事用電力

構内既存の施設
利用できる（※有償
無償）※利用できない

3 土工事

1 埋戻し及び盛土

種別
A種
B種
C種
D種

建設汚泥から再生した処理土

2 建設発生土の処理

※現場説明書による
構外搬出適切処理
構内指示の場所にたい積
構内指示の場所に敷き均し

4 地業工事

1 既製コンクリート杭地業

種類
※高強度プレストレストコンクリート杭

杭径（mm）

杭長（m）及び種別

継手数

セット数

備考

試験杭

本杭

杭頭の処理

※切断しない
先端部形状
※開放形
閉そく平たん形

杭の継手

建築基準法に基づく指定又は認定を受けた継手を使用してもよい。

施工法

特定埋込み杭工法
工法
プレローリング拡大根固め工法
中掘拡大根固め工法
H13国交告1113号第6による支持力算定式でα=250程度を採用できる工法
杭間定着法
使用する

セメントの種類

6章コンクリート工事のセメントの種類による

11 電子納品

1 工事関係図書を電子納品すること

2 書面による署名及び捺印の取り扱い（電子成果物の原本性保証に関する措置）

電子納品の導入にあたっては、従来の署名または捺印に代わる措置として、電子署名の導入が求められるが、電子署名の導入は現時点では困難であるため、
1）受注者は電子媒体の内容の原本性を証明するために、電子媒体に署名又は捺印の上、提出する。
2）共通仕様書に基づく各書面に対する署名又は捺印は、上記1）の措置を持って代えることができる

3 設計CADデータ貸与する。

4 設計図CADデータの著作権は以下の者にある

貸与するCADデータを当該工事における施工図面又は完成図の作図のため以外に使用してはならない。
甲府市役所 建築営繕課

12 化学物質の濃度測定

施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの5物質について測定し、厚生労働省で定める指針値以下の濃度であることを確認し、測定結果報告書を監督職員に提出すること。（測定結果が指針値を超えた場合は、発生源を特定し、換気などの措置を講じた後、再度測定を行う。）

測定対象化学物質

厚生労働省の指針値（25℃の場合）

ホルムアルデヒド

0.08 ppm（100μg/m³）

トルエン

0.07 ppm（260μg/m³）

キシレン

0.20 ppm（870μg/m³）

エチルベンゼン

0.88 ppm（3,800μg/m³）

スチレン

0.05 ppm（220μg/m³）

16 完成図等

※作成する
作成しない

※完成図

※各2部
部（A3版第2原図及び電子媒体（CD-R））

※施工計画書

※提出部数
※1部
部

※施工図

※提出部数
※1部
部

※保全に関する資料

※提出部数
※1部
部

17 完成写真

下記のを監督職員に提出する。ただし、原稿は撮影業者の保管とする。

分類・規格

撮影箇所数

提出部数

原稿の大きさ（mm）

カラー

※キャビネ版

外部（4）内部（）

※2
6

※100×125以上

カラー半切木製パネル
324×400（mm）

外部（）内部（）

※2

電子データ

外部（4）内部（）

※2

※200万画素以上
※300dpi以上

100×125以上の原稿を使う場合は、監督職員にあらかじめべた撮り提出し確認を受ける。
電子データは、RGB（フルカラー）、JPEG形式最高画質とし、CD-Rにて提出とする。
撮影業者 ※監督職員の承諾する撮影業者（ただし、建築完成写真撮影の実績のある業者とする）

18 設備工事との取合い

設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。

19 設計G L

20 工事写真

「営繕工事電子納品要領（令和3年3月改訂版）」による。

2 鉄筋工事

1 鉄筋の種類

コンクリート杭地業

コンクリートの種別及び設計基準強度

(4.5.4) (表4.5.1)

鉄筋の種類

5章鉄筋工事の鉄筋の種類による

配筋工法

アースドリル工法（安定液使用
無水配筋）
リバース工法
オールケーシング工法（孔内の水張
行う
行わない）
場所打ち鋼管コンクリート杭工法
底底杭工法（※安定液使用
）

側壁測定

行う（）
行わない

セメントの種類

6章コンクリート工事のセメントの種類による

2 砂利地業

※再生クラッシュラン
切込み砂利及び切込み砕石

4 床下防湿層

施工箇所
※建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下（ピット下を除く）

5 鉄筋工事

1 鉄筋の種類

種類の記号

呼び名（mm）

SD295

※D16以下

SD345

※D19以上

鉄筋の継手

呼び名19mm以上の柱、梁の主筋

※ガス圧接
重ね継手

鉄筋の最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは目地底から算定する。
耐久性上不利な箇所の鉄筋の最小かぶり厚さは下表による。

施工箇所

表5.3.6の値に加える寸法（mm）

柱、梁、壁及び庇などの外気に接する打放し面

※10

既製コンクリート杭の杭頭補強

A形
B形

※図示

最上階柱頭補強

※行う
行わない

帯筋

※H形（口は除く）

壁開口部の補強

一般壁
A形
B形

※図示

耐震壁

※図示

梁貫通孔の補強形式

※H形
MH形
M形

機械吊上げ用フック

A種
B種
C種（ヶ所）

圧接完了後の試験

※超音波探傷試験
引張試験

6 普通コンクリートの設計基準強度

設計基準強度F_c（N/mm²）

施工箇所

※21

27

2 レディーミクストコンクリートの類別

※Ⅰ類
Ⅱ類

3 スランプ

18cm

4 セメントの種類

※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種
高炉セメントB種（）

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱

7d
352J/g以下

28d
402J/g以下

5 骨材の種類

アルカリシリカ反応による区分

※A
B（※コンクリート中のアルカリ総量R_t≦3.0kg/m³以下）

6 混和材料

混和材

仕様箇所

屋外タキ部分を除く全体：コンクリート躯体防水剤
躯体軸部：高性能AE減水材

7 無筋コンクリート

設計基準強度

※18N/mm²

8 コンクリート躯体表面の処理

外装タイル後張り面の躯体表面の処理

WGR工法を行う場合は、せき板面にWGR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上り面凹凸状態とする。高圧水洗工法の目荒しを行う場合は、水圧50N/mm²以上かつ、2.5分/m以上とし、施工計画書を監督に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。

コンクリートの増打ち厚さ

※20mm

9 断熱材用型枠

適用及び適用箇所について

標仕19章内装工事9断熱材による。

特記事項

承認

代表設計者

設計担当者

縮尺

工事名称

遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（南―カワセミ舎）

図面名称

特記仕様書 1

山梨建築設計監理事業協同組合

設計年月日

南力 A-02 No.

1

見本の製作等

2

アルミニウム製建具

3

樹脂製建具

4

鋼製建具

5

鋼製軽量建具

6

ステンレス製建具

7

木製建具

8

建具用金物

9

自動ドア開閉装置

10

自閉式上吊り引引装置

11

重量シャッター

12

軽量シャッター

13

オーバヘッドドア

14

ガラス

ガラス留め材及び溝

・特殊な建具の仮組（建具符号： ）（表16.1.2）

外部に面する建具（表16.2.2）（表16.2.4）（表16.2.1）

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・ A種	S－4	※ A－3	※W－4	※70	※図示
・ B種	S－5				※図示
・ C種	S－6	A－4	W－5	特記による	※図示

（注）形式が引き違い・片引き・上げ下げ窓で複層ガラスを使用する場合は枠の見込み100mmとする。

断熱等級・
枠 ・ 降子 ：

ガ ラ ス ：

表面処理 ※B B－1種 ・ C種（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）（表14.2.1）

屋内建具
表面処理 ※B C－1種又はB C－2種（表14.2.1）
・ C2種（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）

網戸
防虫網
網の種類 ※ガラス繊維入り合成樹脂製 ・合成樹脂製 ・ステンレス製（SUS316）
形 式 ※外部可動式 ・固定式（表16.2.3）

建具の性能及び構造の適用は建具表による（表16.3.2）
製造所標準仕様による（表16.3.3）

簡易気密型ドアセットの適用は特記による（表16.4.2）（表16.4.1）
耐風圧性の適用は建具表による
特定防火設備の戸 ・適用あり

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による（表16.5.2）

簡易気密型ドアセットの適用は建具表による
耐風圧性の適用は建具表による
表面仕上げ ※H L程度 ・鏡面仕上げ ・
曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ（補強あり）
特定防火設備の戸 ・適用あり（表16.6.1）

かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ）（表16.7.2）
ふすまの上張り（表16.7.3～10）
※新鳥の子又はビニール紙程度（押入等の裏面は除く） ・鳥の子
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量（表16.7.2）
※規制対象外 ・第三種

マスターキー ※製作する ・製作しない（表16.8.4）
建具用金物（表16.8.6）
錠類はシンダラー箱錠（レバーハンドル）とする（表16.8.1～5）
なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監督職員の承諾を受ける（表16.8.2）
吊金物
・丁香（内部建具については、軸を鉄釘としてもよい）
・ピボットヒンジ
・フロアヒンジ

（表16.9.2～3）（表16.9.1～3）

開閉方法	センサの種類
※スライディングドア	・ マットスイッチ ・ 電子マットスイッチ
・ スイングドア	※光線スイッチ ・ 音波スイッチ ・ 熱線スイッチ ・ 光電スイッチ

・凍結防止措置（適用箇所は建具表による）

品質規格 ※標仕表16.10.1による（表16.10.2～3）
・製造所標準仕様による

（表16.11.2）

シャッターの種類	
・一般重量シャッター	耐風圧性能（ ） N/m ²
・外壁用防火シャッター	耐風圧性能（ ） N/m ²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能 ※上部電動式（手動併用） ・上部手動式（表16.11.2）（表16.11.1）

危害防止機構
※障害物感知装置（自動開閉型）
・シャッターの二段降下方式
一般重量シャッターのシャッターケース ※設ける ・設けない（表16.11.2）

開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用）（表16.12.2）（表16.12.1）
スラット 材質 ※溶融亜鉛亜鉛めっき鋼板 ・鋼板（表16.12.3）
形状 ※インターロックング形 ・オーバラッピング形（表16.12.4）
ガイドレール等 ※鋼製板 ・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm）（表16.12.2）
耐風圧性能（ ） N/m²

（表16.13.2～3）

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレール
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板（SUS304）

耐風圧性能（ ） N/m²

※建具表による（表16.14.2）
・ガラスブロック 標仕16.14.5による（表16.14.5）

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調	防火性能
・正方形 ・長方形			※クリア	※無し ・有り

（表9.7.1）

ガラス留め材	建具の種類	材 種
	アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット（FIX部はシーリング材）
	鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材
	ステンレス製	※シーリング材

防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。（表16.14.3）
板ガラスをはめ込む溝の大きさ
標仕16.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は（社）日本建築学会
JASS 17ガラス工事「3.1納まり寸法標仕」によるほか、性能値が確認できる資料を
監督職員に提出する

名 称 種 類 張り面 性能値

※ガラス飛散防止フィルム 第2種 ※内張り ・外張り 飛散防止率 D 1

品質 JIS A 5759による

カーテンウォール工事

2 メタルカーテンウォール

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS14による。

カーテンウォール材料の種類

種 類		規格等	
※アルミニウム製		※標仕16.2.3のアルミニウム製建具の材料による	

カーテンウォール方式

・方式

・バックマリオン方式（・単純2辺支持構法 ・SSG構法）

・スバンドレル方式

・パネル方式

・小型パネル組み合わせ方式（・ノックダウン方式 ・ユニット方式）

シーリング材及びガラス取付け材料

下記以外は標仕表9.7.1による

被着体の組合せ		シーリング材の種類		
金属	ガラス	記 号	主成分による区分	耐久性による区分
	石、タイル			
ガラス				

構造用ガasket ※適用しない

・適用する（施工箇所：図示）

断熱材 ※適用しない

・適用する（種類： 厚さ（mm） ：施工箇所※図示）

製品の寸法許容差 ※標仕表17.2.1による

・製造所標準製作規定寸法許容差による

・取付け

アルミニウムの表面処理

種 別		色彩等	
・BB-1種	・BB-2種	無着色	
・C種		※ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー ・	
・着色塗膜		塗装材料（ ）塗付け方法（ ）コート（ ）ペーク	

耐風圧性能

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧 N/m以上及び負圧 N/m以上に対して安全であること。

主要部材のたわみ

支点間距離（h）	たわみ量	状 態
※4m以下	※±（1/150）×h	※各部の破損、殘留変形 有害な変形が起こらないこと
	かつ絶対量20mm以下	
・4mを超える		

耐震性能

設計用震度 水平方向（KH） ※1.0 ・

垂直方向（KV） ※0.5 ・

建物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	状 態
	※±（1/100）×h以上	※部材の脱着、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらない シーリングは補修程度
鉄骨造		
鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上	
鉄骨鉄筋コンクリート造		

水密性 ・W-4 ・W-5 ・

気密性 ・A-3 ・A-4 ・

耐火性能 ※適用しない ・適用する（ 時間、施工箇所：図示）

映像調整 ※行わない ・行う（建具表による）

製造所 性能等の確認できる資料を提出し監督職員の承諾を受ける

設計図書による規定の他、特記無き事項は（社）日本建築学会JASS 14による。

コンクリートの種類及び品質

※標仕17.3.2による

・下表による。ただし、下表以外は標仕17.3.2による。

コンクリートの種類	設計基準強度（Fc）	所要スランプ（cm）

鉄筋 ※SD295A ・

取付け用金物の表面処理（鉄の亜鉛めっき）及び材質

金物種類及び部位	内 部	外 部
P C板打込み金物	※E種 ・	※C種 ・
P C板打込み取付けボルト	※E種 ・	※ステンレスボルト
2次ファスナー	※E種 ・	※C種 ・
取付けボルト	※F種 ・	※C種 ・
レベル調整ボルト	※F種 ・	※C種 ・

上記以外はカーテンウォール製作所の仕様による

シーリング材料

下記以外は標仕表9.7.1による

施工箇所	シーリング材の種類		
	記 号	主成分による区分	耐久性による区分
カーテンウォール板間目地			

断熱材 ※適用しない

・適用する（種類： 厚さ（mm） ：施工箇所 ※図示）

製品の寸法許容差 ※標仕表17.3.1による

・製造所標準製作規定寸法許容差による

表面仕上げ （ ）

耐火材料

施工部位	種 別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

耐風圧性能

性能値 ※建築基準法施行令第87条及び建設省告示第1454号に定められた風圧力に対して安全であること。

・正圧 N/m以上及び負圧 N/m以上に対して安全であること。

耐震性能


設計用震度 水平方向（KH） ※1.0 ・

垂直方向（KV） ※0.5 ・

建物の構造種別	層間変位量（h=支点間距離）	状 態
	※±（1/100）×h以上	※部材が損傷せず、破損脱落もしない。 ガラス等の破損もない シーリングは補修程度
鉄骨造		
鉄筋コンクリート造	※±（1/200）×h以上	
鉄骨鉄筋コンクリート造		

装 工 事	① 材 料	屋内の壁及び天井の塗装の仕上りは、建築基準法に基づく(基材同等)の認定のあるものとする。(18. 1. 2)
	② 床地ごしらえ	各部の床地ごしらえ (18. 2. 1～7) (表18. 2. 1～7)
		木 部 ※A種 (不透明塗料塗) ※B種 (透明塗料塗) 鉄鋼面 ・ A種 ・ B種 ・ C種 亜鉛めっき鋼面 ・ A種 ・ B種 塗り工法に応じた節の規定 モルタル・ プラスター面 ・ A種 ※B種 コンクリート・ A・L・Cの鉄面 ・ A種 ※B種 コンクリート・ 押出成形セメント板面 ・ A種 ・ B種 塗り工法に応じた節の規定 ボード面 ※A種 (縦目処理工法) ※B種 (その他)
	③ 錆止め	塗料の種類 (18. 3. 1～2) 鉄鋼面 ※A種 ※B種 (標準仕様書8節の場合) 亜鉛めっき鋼面 ※A種 ・ B種 (標準仕様書8節の場合)
	塗料塗り	錆止めの塗料塗り (18. 3. 3) 鉄鋼面 ※A種 (見え掛り) ※B種 (見え隠れ) 亜鉛めっき鋼面 ※A種 (鋼製建具等) ・ B種
	4. 合成樹脂調合 ペイント塗り (SOP)	合成樹脂調合ペイント塗り 木部 鉄鋼面 亜鉛めっき鋼板 (18. 4. 2) 塗料の種類 ※1種 ・ 2種 (表18. 4. 1～3) 合成樹脂調合ペイント塗り 鉄鋼面 ・ A種 ※B種 木部 ※A種 (屋外) ※B種 (屋内)
	5. クリアラック 塗り (CL)	木部のクリアラッカー塗り ・ A種 ※B種 (18. 5. 1) (表18. 5. 1)
	6. アクリル樹脂系 非水分散形塗料塗り (NAD)	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り (屋内) ・ A種 ※B種 (18. 6. 1) (表18. 6. 1)
	⑦ 耐候性塗料塗り (DP)	耐候性塗料塗り (屋外) (18. 7. 2～3) ※特記1. 1～3 上塗りの等級 ～特記による 鉄鋼面 工程く下塗り→研磨→中塗り→上塗り>表18. 7. 2による 亜鉛めっき鋼面 工程く下塗り→研磨→中塗り→上塗り>表18. 7. 3による コンクリート面及び押出成形セメント板面の種類 (18. 7. 4) (表18. 7. 3) ・ A種 ・ B種 ・ C種 種別は表18. 7. 3の特記による
	8. つや有り合成樹脂 エマルションペイント塗り (EP-G)	つや有り合成樹脂エマルションペイント塗り (18. 8. 1～4) コンクリート・ モルタル・ プラスター・ 石こうボード・ その他のボード面 ・ A種 ※B種 木部 (屋内) (多孔質広葉樹を除く) 一位様工程等は、表18. 8. 2による 鉄鋼面 (屋内) ・ A種 ※B種
内 装 工 事	9. 合成樹脂 エマルションペイント塗り (EP)	合成樹脂エマルションペイント塗り コンクリート・ モルタル・ プラスター・ 石こうボード・ その他のボード面 (18. 9. 2) (表18. 9. 1) ・ A種 ※B種
	10. ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)	木部のウレタン樹脂ワニス塗り ・ A種 ※B種 (18. 10. 2)
	11. ステン塗り (OS)	オイルステン塗りの特記による。 (18. 11. 2)
	12. 木材保護塗料塗り (WP)	木材保護塗料塗り ・ A種 ※B種 (18. 12. 1)
	2 ビニルシート張り ビニル床タイル 及びゴム床タイル張り	・ ビニル床シート (19. 2. 1～2) (表19. 2. 1～2) JIS A5705のJIS表示認証製品 種 類 記号 色 柄 厚さ (mm) 特殊機能 工 法 ※ 発泡層の ※F S ・ 無地 ※ 2. 0 ・ 帯電防止 ※熱溶接 ないもの ・ T S ・ マーブル ・ 2. 5 ・ 帯電荷重 ・ 交付 発泡層の ・ H S あるもの ・ K S ・ 化粧ビニル床シート JIS A5705のJIS表示認証製品で、表面は印刷シートに透明層を有した木目又は石目調のもの 種類の記号 色 柄 厚さ (mm) 特殊機能 工 法 F S ・ 木目調 ※ 2. 0 ・ 帯電防止 ※熱溶接 ・ 石目調 ・ 2. 5 ・ 帯電荷重 ・ 交付 上記以外はすべてビニル床シートに同じ ・ ビニル床タイル JIS A5705のJIS表示認証製品 種 類 記号 寸法 厚さ (mm) 特殊機能 ※ コンポジション ※K T ※300×300 ・ 2. 0 ・ 帯電防止 ・ ルーパイル ビニル床タイル ・ 帯電荷重 ・ ホモジニアス ・ F T ・ 300×300 ・ 2. 0 ・ 帯電防止 ・ ビニル床タイル ・ 450×450 ・ 2. 5 ・ 帯電荷重 ・ 特殊機能床材 帯電防止 ・ 帯電防止性能評価 (JIS A 1445) 1. 2～3. 1程度 又は耐電圧 (JIS L 1023) 3kV以下 ・ 帯電防止性能評価 (JIS A 1445) 3. 2～5. 1程度 又は漏えい抵抗値 (JIS A 1454) 0. 1×1010オーム未満 ・ 帯電防止性能評価 (JIS A 1445) 5. 2以上 又は漏えい抵抗値 (JIS A 1454) 0. 1×107オーム未満 耐動荷重 JIS A 1454によるへこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、腐爛刺激強度試験 (発泡層のあるビニルシートのみ) およびキャスター性試験等の試験後異常がないこと。 ・ 視覚障害者用床タイル 材 質 寸 法 (mm) ・ 塩化ビニル系 ・ セツ器質タイル系 300×300 ・ ビニル幅木 材 種 ※ 軟質 ・ 硬質 ・ 溶接 高 さ (mm) ※ 6. 0 ・ 7. 5 ・ 10. 0 厚 さ (mm) ※ 1. 5 ・ 2. 0 ・ 接着剤 JIS A 5536 (床仕上げ材接着剤) により、 種別は表19. 2による施工箇所に応じたものとする。 ホルムアルデヒド放数量は特記による。特記がなければF☆☆☆☆とする。
	3 カーペット敷き	・ 織じゅうたん (19. 3. 1～4) (表19. 3. 1) 種 別 バイル形状 色柄等 備 考 ・ A種 ・ カットバイル ※無地 ・ B種 ・ ルーパイル ※柄物 (標準品) ・ C種 ・ カット、ルーパイル併用 耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・ タフテッドカーペット (19. 3. 3～4) (表19. 3. 2) バイル形状 バイル長 (mm) 工 法 備 考 ・ カットバイル ※5～7 ※全面接着工法 下敷き材を敷く。 ・ ルーパイル ※4～6 ・ グリッター工法 ・ レベルルーパイル ※4 ・ カット、ルーパ併用 耐電性 ※人体帯電圧3kV以下

		・タイルカーベット (表19.3.2)																																																									
		<table><tr><th>バイル形状</th><th>種 類</th><th>寸法 (mm)</th><th>総厚さ (mm)</th><th>備 考</th></tr><tr><td>※ループバイル</td><td>※第一種 ・第二種</td><td>※500×500</td><td>※6.5</td><td>粘着はく離形接着剤を使用する。</td></tr><tr><td>・カットバイル</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・カット、ループ併用</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				バイル形状	種 類	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備 考	※ループバイル	※第一種 ・第二種	※500×500	※6.5	粘着はく離形接着剤を使用する。	・カットバイル					・カット、ループ併用																																						
バイル形状	種 類	寸法 (mm)	総厚さ (mm)	備 考																																																							
※ループバイル	※第一種 ・第二種	※500×500	※6.5	粘着はく離形接着剤を使用する。																																																							
・カットバイル																																																											
・カット、ループ併用																																																											
4	合成樹脂塗床	耐電圧 ・人体帯電圧3kV以下 (フリーアクセスフロア敷設範囲) (表19.4.1～4) (表19.4.1～8)																																																									
		<table><tr><th>種 別</th><th colspan="4">仕上げの種類</th></tr><tr><td>・弾性ウレタン塗床材</td><td colspan="4">※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ</td></tr><tr><td>・エポキシ樹脂塗床材</td><td colspan="4">・薄膜脱し履べ仕上げ ・厚膜脱し履べ仕上げ (・平滑 ・防滑) ・樹脂モルタル仕上げ (・平滑 ・防滑) ・防滑仕上げ</td></tr></table> 特記による				種 別	仕上げの種類				・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ				・エポキシ樹脂塗床材	・薄膜脱し履べ仕上げ ・厚膜脱し履べ仕上げ (・平滑 ・防滑) ・樹脂モルタル仕上げ (・平滑 ・防滑) ・防滑仕上げ																																										
種 別	仕上げの種類																																																										
・弾性ウレタン塗床材	※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ																																																										
・エポキシ樹脂塗床材	・薄膜脱し履べ仕上げ ・厚膜脱し履べ仕上げ (・平滑 ・防滑) ・樹脂モルタル仕上げ (・平滑 ・防滑) ・防滑仕上げ																																																										
5	フローリング張り	・車層フローリング (表19.5.1～6) (表19.5.1～7)																																																									
		<table><tr><th>種 別</th><th>樹種</th><th>厚さ (mm)</th><th>工 法</th><th>塗装</th></tr><tr><td>・ フローリング ボード</td><td>※ナラ</td><td>※15 幅 75 長さ900以上</td><td>・釘止め工法 ・接着工法</td><td>※ウレタン樹脂 ワニス塗り</td></tr><tr><td>・ フローリング ブロック</td><td>※ナラ</td><td>※15 303×303</td><td>・ ・接着工法</td><td>・オイルステ ン塗りの上ワックス</td></tr><tr><td>・ モザイク パーケット</td><td>※ナラ</td><td>・6 ・8 ・9</td><td>・接着工法</td><td>・生地のままワックス ・既塗装品</td></tr></table>				種 別	樹種	厚さ (mm)	工 法	塗装	・ フローリング ボード	※ナラ	※15 幅 75 長さ900以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂 ワニス塗り	・ フローリング ブロック	※ナラ	※15 303×303	・ ・接着工法	・オイルステ ン塗りの上ワックス	・ モザイク パーケット	※ナラ	・6 ・8 ・9	・接着工法	・生地のままワックス ・既塗装品																																		
種 別	樹種	厚さ (mm)	工 法	塗装																																																							
・ フローリング ボード	※ナラ	※15 幅 75 長さ900以上	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂 ワニス塗り																																																							
・ フローリング ブロック	※ナラ	※15 303×303	・ ・接着工法	・オイルステ ン塗りの上ワックス																																																							
・ モザイク パーケット	※ナラ	・6 ・8 ・9	・接着工法	・生地のままワックス ・既塗装品																																																							
		・複層フローリング																																																									
		<table><tr><th>種 別</th><th>樹種</th><th>種別</th><th>防湿処理</th><th>工 法</th><th>塗装</th></tr><tr><td>・ 複合1種 フローリング</td><td>※ナラ ・サクラ</td><td>・A種 ・B種 ※C種</td><td>・行う ・行わない</td><td>・釘止め工法 ・接着工法</td><td>※ウレタン樹脂 ワニス塗り</td></tr><tr><td>・ 複合2種 フローリング</td><td>・ヒノキ</td><td></td><td></td><td></td><td>・オイルステ ン塗りの上 ワックス</td></tr><tr><td>・ 複合3種 フローリング</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・生地のまま ワックス</td></tr><tr><td>・ 大型積層 フローリング</td><td>・ナラ ・サクラ</td><td></td><td>・行う ・行わ ない</td><td>・特殊張り 工法 (体育館床)</td><td>・ワックス ・既塗装品</td></tr></table>				種 別	樹種	種別	防湿処理	工 法	塗装	・ 複合1種 フローリング	※ナラ ・サクラ	・A種 ・B種 ※C種	・行う ・行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂 ワニス塗り	・ 複合2種 フローリング	・ヒノキ				・オイルステ ン塗りの上 ワックス	・ 複合3種 フローリング					・生地のまま ワックス	・ 大型積層 フローリング	・ナラ ・サクラ		・行う ・行わ ない	・特殊張り 工法 (体育館床)	・ワックス ・既塗装品																								
種 別	樹種	種別	防湿処理	工 法	塗装																																																						
・ 複合1種 フローリング	※ナラ ・サクラ	・A種 ・B種 ※C種	・行う ・行わない	・釘止め工法 ・接着工法	※ウレタン樹脂 ワニス塗り																																																						
・ 複合2種 フローリング	・ヒノキ				・オイルステ ン塗りの上 ワックス																																																						
・ 複合3種 フローリング					・生地のまま ワックス																																																						
・ 大型積層 フローリング	・ナラ ・サクラ		・行う ・行わ ない	・特殊張り 工法 (体育館床)	・ワックス ・既塗装品																																																						
6	畳敷き	畳の種類 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 () (表19.6.2) (表19.6.1)																																																									
7	せっこうボード その他ボード 及び合板張り	(表19.7.1～5) (表19.7.2～3)																																																									
		<table><tr><th>種 類</th><th>JISの記号</th><th>厚さ (mm) ・規格等</th></tr><tr><td>・硬質木毛セメント板</td><td>HW </td><td>・15 ・20 ・25 ・</td></tr><tr><td>・普通木毛セメント板</td><td>NW </td><td>・15 ・20 ・25 ・</td></tr><tr><td>・けい酸カルシウム板</td><td>0.8 F K</td><td>タイプ2 (無石綿) (・6 ・8 ・)</td></tr><tr><td>・ロックウール化粧吸音板</td><td>D R</td><td>※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12 ・) ・凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19 ・)</td></tr><tr><td>・ロックウール化粧吸音板 (軒天併用)</td><td>D R (凹凸) D R (軒天) D R (軒天凹凸)</td><td>※フラットタイプ 9 (不燃) ・凹凸タイプ (※12 ・15) (不燃)</td></tr><tr><td>・せっこうボード</td><td>G B－R</td><td>※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)</td></tr><tr><td>・不燃積層せっこうボード</td><td>G B－N C</td><td>9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様)</td></tr><tr><td>・シーシングせっこうボード</td><td>G B－S</td><td>12.5 (不燃)</td></tr><tr><td>・強化せっこうボード</td><td>G B－F</td><td>12.5 (不燃) 15.0 (不燃)</td></tr><tr><td>・せっこうラスボード</td><td>G B－L</td><td>9.5</td></tr><tr><td>・化粧せっこうボード (木目)</td><td>G B－D</td><td>9.5 (不燃) 幅440mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き</td></tr><tr><td>・難燃合板</td><td></td><td>・生地、透明塗料塗り (ラウワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) JIS K 6903による 厚さ1.2</td></tr><tr><td>・メラミン樹脂化粧板</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ミディアムテンシティ ファイバーボード</td><td>M D F </td><td>・3 ・7 ・9 ・12 ・</td></tr><tr><td>・単板張りパーティクルボード</td><td></td><td>・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・</td></tr><tr><td>・ハードボード (素地)</td><td>H B </td><td>・無研磨板 (・スタンダード ・テンバード) ・研磨板 (・スタンダード ・テンバード)</td></tr><tr><td>・インシュレーションボード</td><td>I B </td><td>A級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 ・</td></tr></table>				種 類	JISの記号	厚さ (mm) ・規格等	・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・	・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・	・けい酸カルシウム板	0.8 F K	タイプ2 (無石綿) (・6 ・8 ・)	・ロックウール化粧吸音板	D R	※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12 ・) ・凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19 ・)	・ロックウール化粧吸音板 (軒天併用)	D R (凹凸) D R (軒天) D R (軒天凹凸)	※フラットタイプ 9 (不燃) ・凹凸タイプ (※12 ・15) (不燃)	・せっこうボード	G B－R	※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)	・不燃積層せっこうボード	G B－N C	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様)	・シーシングせっこうボード	G B－S	12.5 (不燃)	・強化せっこうボード	G B－F	12.5 (不燃) 15.0 (不燃)	・せっこうラスボード	G B－L	9.5	・化粧せっこうボード (木目)	G B－D	9.5 (不燃) 幅440mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き	・難燃合板		・生地、透明塗料塗り (ラウワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) JIS K 6903による 厚さ1.2	・メラミン樹脂化粧板			・ミディアムテンシティ ファイバーボード	M D F	・3 ・7 ・9 ・12 ・	・単板張りパーティクルボード		・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・	・ハードボード (素地)	H B	・無研磨板 (・スタンダード ・テンバード) ・研磨板 (・スタンダード ・テンバード)	・インシュレーションボード	I B	A級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 ・
種 類	JISの記号	厚さ (mm) ・規格等																																																									
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・																																																									
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・																																																									
・けい酸カルシウム板	0.8 F K	タイプ2 (無石綿) (・6 ・8 ・)																																																									
・ロックウール化粧吸音板	D R	※フラットタイプ (※9 (不燃) ・12 ・) ・凹凸タイプ (※12 (不燃) ・15・19 ・)																																																									
・ロックウール化粧吸音板 (軒天併用)	D R (凹凸) D R (軒天) D R (軒天凹凸)	※フラットタイプ 9 (不燃) ・凹凸タイプ (※12 ・15) (不燃)																																																									
・せっこうボード	G B－R	※12.5 (不燃) ・9.5 (準不燃)																																																									
・不燃積層せっこうボード	G B－N C	9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用) 化粧有 (トラバーチン模様)																																																									
・シーシングせっこうボード	G B－S	12.5 (不燃)																																																									
・強化せっこうボード	G B－F	12.5 (不燃) 15.0 (不燃)																																																									
・せっこうラスボード	G B－L	9.5																																																									
・化粧せっこうボード (木目)	G B－D	9.5 (不燃) 幅440mm程度 模様 (※柱目 ・板目) 専用下地材付き																																																									
・難燃合板		・生地、透明塗料塗り (ラウワン合板程度) ・不透明塗料塗り (しな合板程度) JIS K 6903による 厚さ1.2																																																									
・メラミン樹脂化粧板																																																											
・ミディアムテンシティ ファイバーボード	M D F	・3 ・7 ・9 ・12 ・																																																									
・単板張りパーティクルボード		・無研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・																																																									
・ハードボード (素地)	H B	・無研磨板 (・スタンダード ・テンバード) ・研磨板 (・スタンダード ・テンバード)																																																									
・インシュレーションボード	I B	A級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 ・																																																									
		合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 ※適用する ・適用しない 吸音材 (表19.7.1)																																																									
		<table><tr><th>種 類</th><th>JISの記号</th><th>厚さ (mm)</th></tr><tr><td>・ロックウール吸音ボード1号</td><td>R W－B</td><td>※25</td></tr><tr><td>※グラスウール吸音ボード32K</td><td>G W－B</td><td>※25</td></tr></table>				種 類	JISの記号	厚さ (mm)	・ロックウール吸音ボード1号	R W－B	※25	※グラスウール吸音ボード32K	G W－B	※25																																													
種 類	JISの記号	厚さ (mm)																																																									
・ロックウール吸音ボード1号	R W－B	※25																																																									
※グラスウール吸音ボード32K	G W－B	※25																																																									
8	壁紙張り	(表19.8.2) (表19.8.2)																																																									
		<table><tr><th rowspan="2">施工箇所</th><th colspan="4">壁紙の種類</th><th rowspan="2">防火性能</th><th rowspan="2">備 考</th></tr><tr><th>紙</th><th>繊維 (繊維) (ビニル)</th><th>ブラ (化学繊維)</th><th>その他 無機質</th></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃</td></tr></table>				施工箇所	壁紙の種類				防火性能	備 考	紙	繊維 (繊維) (ビニル)	ブラ (化学繊維)	その他 無機質							・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃																																				
施工箇所	壁紙の種類				防火性能		備 考																																																				
	紙	繊維 (繊維) (ビニル)	ブラ (化学繊維)	その他 無機質																																																							
						・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃																																																					
		素地ごしえ (表18.2.4～5) (表18.2.7)																																																									
		モルタル、プラスター面 ※B種 ・A種 (施工箇所：) せっこうボード面 ※B種 ・A種 (施工箇所：) 壁紙のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 (表19.8.2)																																																									
9	断熱・防露	(表19.9.2～3) (表19.9.2～3)																																																									
		<table><tr><th>種 類</th><th>施工箇所</th><th>厚さ (mm)</th><th>品質等</th></tr><tr><td>・押出法 ポリスチレン フォーム 保温板</td><td>※2種 b ※3種 b (スキン層付)</td><td>※一般部 ・接地部分</td><td>・25 ・100 ・25 ・</td></tr><tr><td>・現場発泡断熱材</td><td></td><td>※断熱材補修部分 ・一般部</td><td>— ・15 ・40</td></tr><tr><td>・断熱材兼用型枠</td><td>・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系</td><td>※壁 (図示の範囲)</td><td>※40以下</td></tr><tr><td></td><td></td><td>製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する</td><td>特定フロンを使用 しないもの 難燃性・3級 ・2級</td></tr><tr><td></td><td></td><td>製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの</td><td>断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0.076以上 (㎡・K/w)</td></tr></table>				種 類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等	・押出法 ポリスチレン フォーム 保温板	※2種 b ※3種 b (スキン層付)	※一般部 ・接地部分	・25 ・100 ・25 ・	・現場発泡断熱材		※断熱材補修部分 ・一般部	— ・15 ・40	・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁 (図示の範囲)	※40以下			製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する	特定フロンを使用 しないもの 難燃性・3級 ・2級			製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの	断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0.076以上 (㎡・K/w)																														
種 類	施工箇所	厚さ (mm)	品質等																																																								
・押出法 ポリスチレン フォーム 保温板	※2種 b ※3種 b (スキン層付)	※一般部 ・接地部分	・25 ・100 ・25 ・																																																								
・現場発泡断熱材		※断熱材補修部分 ・一般部	— ・15 ・40																																																								
・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁 (図示の範囲)	※40以下																																																								
		製造所 性能の確認できる資料を監督職員に提出する	特定フロンを使用 しないもの 難燃性・3級 ・2級																																																								
		製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの	断熱抵抗 ＝厚さ/熱伝導率 ＝0.076以上 (㎡・K/w)																																																								
		ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した 断熱材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種																																																									

特 記 事 項	 山梨建築設計監理事業協同組合	承認	代表設計者	設計担当者	縮	尺	工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（南—カワセミ舎）	図面名称 特記仕様書 3	南力 A-04 No.
		一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	設計年月日					

構造設計標準仕様

適用は ☒ 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（南一カワセミ舎）
建築場所 山梨県甲府市太田町10-1
- (2) 工事種別 ☒新築 ☐増築 ☐増改築 ☐改築
- (3) 構造種別 ☐木造(W) ☐補強コンクリートブロック造(CB) ☒鉄骨造(S)
☐鉄筋コンクリート造(RC) ☐壁式鉄筋コンクリート造(WRC)
☐鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) ☐壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC)
☐プレキャスト鉄筋コンクリート造(PRC)
- (4) 階 数
地下 階 地上 1 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 動物園舎
- (6) 屋上付属物 ☐広告塔 ☐太陽光発電パネル0.20KN/m² ☐キュービクル KN ☐空調室外機
- (7) 増築計画 ☐有（ ） ☐無
- (8) 付帯工事
☐門塚 ☐擁壁 ☐外部外構工事 ☐
- (9) 特別な荷重
☐エレベータ 人乗（ロープ式 油圧式） ☐リフト KN ☐クレーン KN
☐倉庫積載床用 N/m² ☐受水槽 KN
- (10) 構造計算ルート X方向ルート -（ 1 ） Y方向ルート -（ 1 ）

2. 使用構造材料

- (1) コンクリート
- | 適用箇所 | 種 類 | 設計基準強度
F _c =N/cm ² | 耐久設計基準強度
F _d =N/cm ² | スラブ
cm | 備 考 |
|----------|--|---|---|-----------|-----|
| 捨コンクリート | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 | 18 | | 18 | |
| 土間コンクリート | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 | 18、21 | | 15 | |
| 基礎、基礎はり | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 | 18、21、24 | 24（標準） | 18 | |
| 柱、はり、床、壁 | <input checked="" type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量 | 18、21、24 | 24（標準） | 18 | |
| | <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量 | 18、21、24 | | | 比重 |
| 押えコンクリート | <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> 軽量 | 15、18、24 | | 18 | 比重 |
| 混和剤 | | | | | |
- (2) コンクリートブロック(CB)
☐A種 ☐B種 ☐C種 厚 ☐100、 ☐120、 ☐150、 ☐190、
- (3) 鉄 筋
- | 種 類 | 径 | 使用箇所 | 継手工法 | |
|------------------|---|---------|-------|---|
| 異形鉄筋 | <input checked="" type="checkbox"/> SD295 | D10～D16 | 基礎、躯体 | <input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手

<input type="checkbox"/> ガス圧接継手 |
| | <input type="checkbox"/> SD345 | | | |
| | <input type="checkbox"/> | | | |
| | <input type="checkbox"/> | | | |
| 高強度せん断補強筋 | <input type="checkbox"/> | | | <input type="checkbox"/> 特殊継手 |
| 丸 鋼 | <input type="checkbox"/> SR235 | | | |
| 溶接金網(JIS G 3551) | <input type="checkbox"/> 6φ@150 | | | () |
- (4) 鉄 骨
- | 種 類 | 使用箇所 | 現場溶接 | 備 考 |
|--|------|---|-----|
| <input checked="" type="checkbox"/> SS400 <input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SN400A、B | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | |
| <input checked="" type="checkbox"/> STKR400 <input type="checkbox"/> STKR490 <input type="checkbox"/> STK400 | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | |
| <input type="checkbox"/> BCR295 <input type="checkbox"/> BCP235 | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | |
| <input type="checkbox"/> SM490A <input type="checkbox"/> SN490B <input type="checkbox"/> SN490C | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | |
| <input type="checkbox"/> SSC400 <input type="checkbox"/> | | <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 | |
- 使用箇所の詳細については別途図示とする。
- (5) ボルト
☒高力ボルト ☐汎用、F8T ☐普通、F10T ☐特殊、S10T 認定品(☐M12、☐M16、☐M20、☐M22)
☒中ボルト

☒アンカーボルト
☐SNR490B M φ= L= mm ナット(☐シングル、☐ダブル)
☐SS400 M 16 L= 400 mm ナット(☐シングル、☐ダブル)
☐スタッドボルト φ= L= mm 使用箇所(☐柱 ☐大梁 ☐小梁)
φ= L= mm 使用箇所(☐柱 ☐大梁 ☐小梁)
- (6) 屋根、床、壁
☐ALC版 厚 H= 厚
☐折 版 型式 H= 厚
☐Q.L.ルーフ H= 厚
☐特殊デッキプレート 厚
☐フラットデッキ 厚

3. 令129条の2の3の事項

- ☒建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持部及び緊結金物は腐食または腐朽の恐れのないものとする。
☐屋上から突出する水槽、煙突冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。
☐煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支持を設けたものを除き、90cm以下とすること。
☐煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は、厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
☒建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
☒風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障がない構造とすること。
☒建築物の部分を通して配管する場合に於いては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
☒管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずる恐れがある場合において、伸縮継ぎ手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
☒管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
☐法第20条第一号から3号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについて
☐は建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造上安全なものとする。

4. 地 盤

- (1) 地盤調査資料 ☒有 ☐敷地内 ☐近隣 ☒ボーリング調査 ☐平板載荷試験 ☒SWサウンディング
☐無（調査予定 ☐有 ☐無）
- (2) 地盤調査計画
☐ボーリング調査 ☐静的貫入試験 ☐標準貫入試験 ☐水平地盤反力係数の測定
☐土質試験 ☐物理探査 ☐平板載荷試験 ☐SWサウンディング
- (3) 地盤調査及び試験杭の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある
- (4) ボーリング標準貫入土、土質構成（基礎・杭の位置を明記すること）

深度	土 質	N 値	標準貫入試験	調査地番
			10 20 30 40 50 60	敷地内
1				
2				
3				
4				
5				
6				

○調査地番 敷地内
○支持地盤、地層及び深さについてのコメント
○位置図
○孔内水位 GL - m

5. 地業工事

- (1) 直接基礎 ☒ベタ基礎 ☐布基礎 ☐独立基礎 試験堀 ☐有 ☒無
深さGL-0.50m、支持層-地盤改良土 長期許容支持力度 50 KN/m² 載荷試験 ☐有 ☒無
- (2) 地盤改良基礎 支持層- 礫混じり粘土

改 良 工 法	仕様・支持地盤等	施 工 法	備 考
<input type="checkbox"/> 浅層地盤改良		<input type="checkbox"/> 掘削、混入後 転圧 <input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 環境パイルS	礫混じり粘土	<input type="checkbox"/> 環境パイルS工法同等工法 <input type="checkbox"/>	技術審査証明 取得工法とする。

地盤改良仕様 ☐施工計画書承認 ☐施工結果報告書
試験 (☐有 ☐無) (☐一軸圧縮試験 ☐載荷)

改良杭径(mm)	設計支持力(KN/本)	杭先端の深さ(m)	本数	特記事項

6. 鉄筋コンクリート工事（施工方法等計画書）

- (1) コンクリート
☒コンクリートはJIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5（2009年版）による。
☒耐久設計基準強度 F_d ☐一般 ☒標準 ☐長期
☒セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
☒調合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
☒寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
☒フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真（カラー）を保管し承認を得る。測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
☒構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5 T-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。また、打ち込み量が150m³をこえる場合は150m³ごとまたは、その端数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4週用に3本を用いる。
☒ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ちコンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技師または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- (2) 鉄 筋
☒鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。
☒鉄筋の加工寸法、形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)(2)」による。
☒D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋の圧接工事標準仕様書」による。
☒ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごとに1回行い、1回の試験は30本以上とする。
外観検査 ☒有 ☐無、引張試験 ☐有 ☒無、超音波探傷試験 ☒有 ☐無
☐柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、☐H型(タガ型) ☐W型(溶接型) ☐S型(スパイラル型)とする。
☒コンクリート及び鉄筋の試験は下記の試験機関で行うこと

試験機関名 公共試験機関
代行業者名
代行業者とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

- (3) 型 枠
☒材料 合板厚 12mmを標準とする。 ☒施工 JASS5による。
☒型枠存置期間

種類 部位 セメントの種類 養生期間(日)	せ き 板				支 柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下
コンクリート	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント 高炉セメントA種 シリカセメントA種
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	28
5～15℃	3	5	6	10	12	25	28	28
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	28
コンクリートの圧縮強度	5N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の		85%	100%

- 注) 1 片持ばり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。
- 注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
- 注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注) 4 盛りかえ後の支柱顶部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。
一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事（施工方法等計画書）

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
☒日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
☒鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
☒日本建築センター「冷間成形形鋼管設計・施工マニュアル（改訂版）」
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
☒製作工場 ☒製作要領書 ☒工作図 ☒施工計画書
☒認定または登録工場(M グレード以上 グレード都登録 ランク)
☒材料規格証明書または試験成績書
☒鋼材 ☒高力ボルト ☐特殊ボルト ☐頭付スタッド
※社)日本鋼構造協会「建築鋼構造用鋼材の品質証明ガイドライン」の規格証明方法、またはミルシート
☒社内検査表 ☐
- (3) 工事監理者が行う検査項目
☐印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること
☐現寸検査 ☐組立・開発検査 ☒製品検査 ☒建方検査 ☐
- (4) 接合部の溶接は下記によること
☒平成12年度建設省告示第1464号第2号イ、ロ
☒鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱
☒日本建築学会「溶接工作規準、同解説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、Ⅷ、Ⅸ」
☒日本建築学会「溶接工事技術指針 工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
☒溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数				備 考
		社 内	第三者	工事監理者		
<input checked="" type="checkbox"/> 突合せ溶接部 <input type="checkbox"/>	外観検査※	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100 <input checked="" type="checkbox"/>		※平成12年建設省告示第1464号第二号による（目視及び計測） (注)東京都の要綱に基づき必要となる建築物の場合に実施する。
	超音波探傷検査	100 <input checked="" type="checkbox"/>	30 <input checked="" type="checkbox"/>		% 個	
	内質検査(注) <input type="checkbox"/> 硬さ試験 <input type="checkbox"/> 示温塗料塗布				% 個	
	マクロ試験・その他				% 個	
<input type="checkbox"/>	外観検査(※)				% 個	
第三者検査機関名 工事監理者が指定する第三者検査機関						
第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。						

- 注1) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主事に報告すること
☒高力ボルトの検査
軸力導入試験 ☐要 ☒否 高力ボルトすべり係数試験 ☐要 ☒否
☒一次締め後にマーキングを行い、二次締め後そのずれを見て、供回り等の異常がないことを確認する
☒トルシア形高力ボルトは二次締め後、ピンテールが破断していることを確認する。

- (6) 防錆塗装
☒防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。
錆止めペイントは、☐JIS K 5621 ☐JIS K 5625 を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
☒現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

- (7) 耐火被覆の材料
☐別図（意匠図：耐火リスト）による

7. 設備関係

- ☒設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
☐エレベーターの駆動装置等は、構造体に安全に緊結されていること。
☒特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること
☒床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上とする。
☒給湯設備は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15.0Kgを超える貯湯設備については、地震に対して安全上支障の無い構造として、平成24年国土交通省告示第1447号第5に規定する構造方法によること。
(完了検査までに、詳細図を指定確認機関に提出すること。)

8. その他

- ☒諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
☒各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
☒必要に応じて記録写真を撮り保管すること。

特 記 事 項 _____



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮 尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	設計年月日

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（南一カワセミ舎）
図面名称 構造設計標準仕様

南力 A-06
No.

鉄骨構造標準図（１）

１．一般事項

- (１) 材料及び検査
- (a) 構造設計資料による
- (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40mm以下のものとする
- (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する
- (２) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監理者の承認を得る
- (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による
- (c) 高張力鋼のひずみきょう正は、冷間きょう正とする
- (３) 高力ボルト接合
- (a) 本総めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない
- (４) 溶接接合
- (a) 溶接工
- 溶接工は施工する溶接に適用するJIS Z3801（手溶接）又はJIS Z3841（半自動溶接）の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする
- (b) 溶接機器
- (i) 交流アーク溶接機 300A～500A (c) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
- (d) アークエアークウジング機（直流） (e) 溶接電流を測定する電流計
- (f) サブマージアーク溶接機 1式 (g) 溶接棒乾燥機
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接（MC） ガスシールドアーク半自動溶接（GC）
- セルフ（ノンガス）シールドアーク半自動溶接（NGC） アークエアークウジング（AAG）
- (d) 溶接姿勢
- 下向 F 立向 V 横向 H 上向 O
- (e) 仮付溶接工は、原則として本工事に従事する者が行う
- (f) 仮付位置
- 仮付溶接は溶接の始、終端隅口角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける
- (d) 仮付不良 良 仮付不良 良
- (d) 突合せ溶接部の仮付け溶接は必ず裏はつり側に施工する
- 仮付溶接 裏はつり側にする 開先面
- (f) 溶接施工
- (i) エンドタブ
- I) 突き合わせ溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける
- II) エンドタブの材質は、母材と同質とする
- III) エンドタブの長さは、MC：35mm以上
- NGC、GC：40mm以上とし特記のない場合は、溶接終了後、母材より10mm程度残し切断して、グラインダー仕上げとする
- IV) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の確認を得る
- (d) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする
- (f) スカーラップ 半径は30～35mmとする
- (c) 裏はつり
- 規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークをつける
- (e) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためないように、養生を行う
- (５) 塗装
- コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

２．溶接規準図

(注) f：余盛 G：ルート間隔 R：フェース S：脚長 (単位mm)

(１) スミ肉溶接

(２) 部分溶込み溶接 (使用箇所に注意)

(３) 突合せ溶接 (平継手 T形継手)

(４) フレー溶接

●BOX型 (通しダイヤフラムの場合)

断面図 A-A

平面詳細

スカーラップは改良型スカーラップとする。

スカーラップ部分は回し溶接する

20以上かつエンドタブが互にあたらぬこと

内ダイヤフラム

根巻きの場合

●柱が途中で折れる場合
及梁成が異なる場合

フランジが柱のRに接しないこと

t>柱フランジのプレート厚

θ=75°～105°

●H型

断面図 A-A

平面詳細

●BH方式

※全周すみ肉溶接又は突合せ溶接（裏あて金付）



鉄骨構造標準図（２）

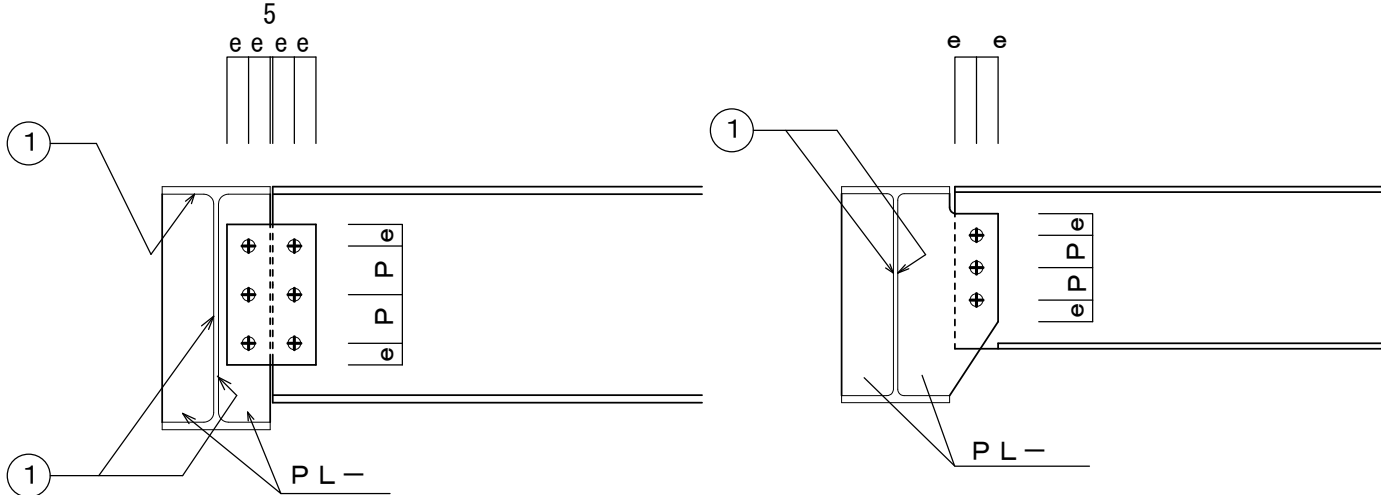
３．継手規準図、その他

（１） ボルトピッチ（P） ボルト穴径・最小縁端距離

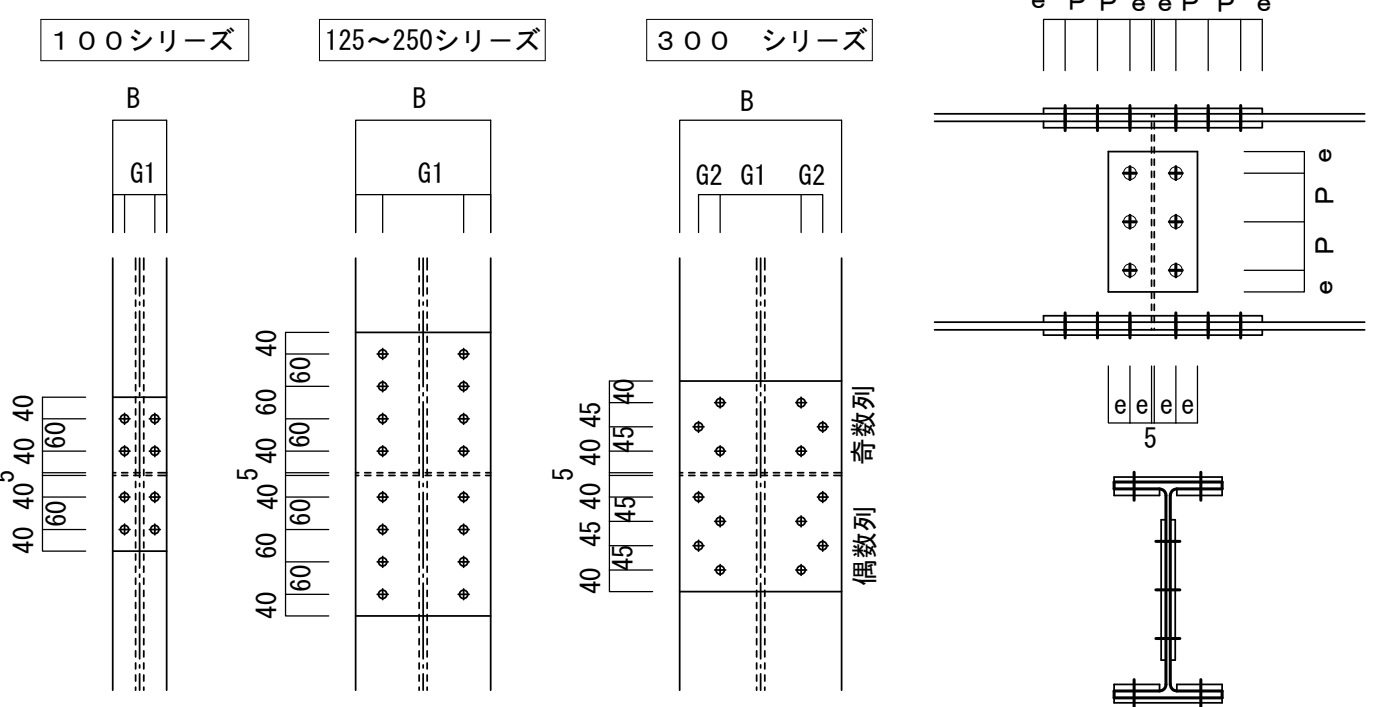
呼 び	ボルト 穴 径	最 小 縁 端 距 離（e）				ピ ッ チ	
		（１）	（２）	（３）	（２）（３）の標準	最 小	標 準
M16	17.0	4.0	2.8	2.2	4.0	4.0	6.0
M20	21.5	5.0	3.4	2.6	4.0	5.0	6.0
M22	23.5	5.5	3.8	2.8	4.0	5.5	6.0
M24	25.5	6.0	4.4	3.0	4.5	6.0	7.0

（注）（１） 引張材の接合部で応力方向にボルトが３本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離
（２） せん断縁・手動ガス切断縁の場合の縁端距離
（３） 圧延縁・自動ガス切断縁・のこ引き縁・機械仕上縁の場合の縁端距離

（２） 梁ピン接合継手



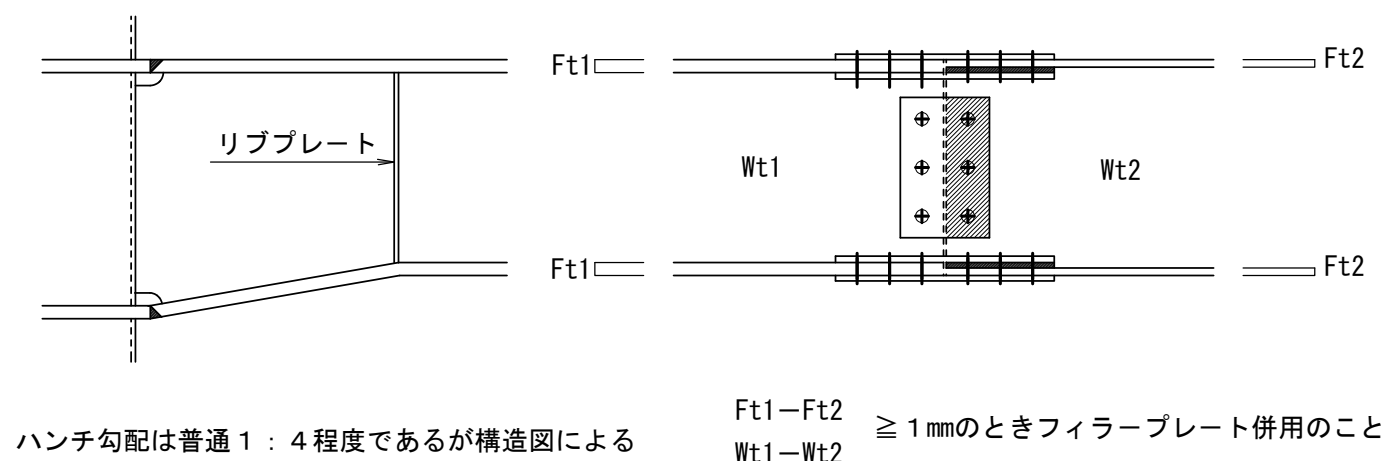
（３） 梁剛接合継手



H形鋼 フランジ幅	高力ボルト使用区分			フランジゲージ		フランジ添板幅		備 考
	M16	M20	M22	G1	G2	外 側	内 側	
100	○	△	△	5.6	10.0	10.0		
125	○	△	△	7.5	12.0	4.5		
150	○	△	△	9.0	14.5	5.5		
175	○	△	△	10.5	17.0	6.5		
200	○	△	△	12.0	19.5	7.0		
250	○	△	△	15.0	24.5	9.5		
300	○	△	△	15.0	4.0	29.5	10.5	千鳥打ち

（４） ハンチ部分継手

フランジ及ウェブ厚の差のある場合

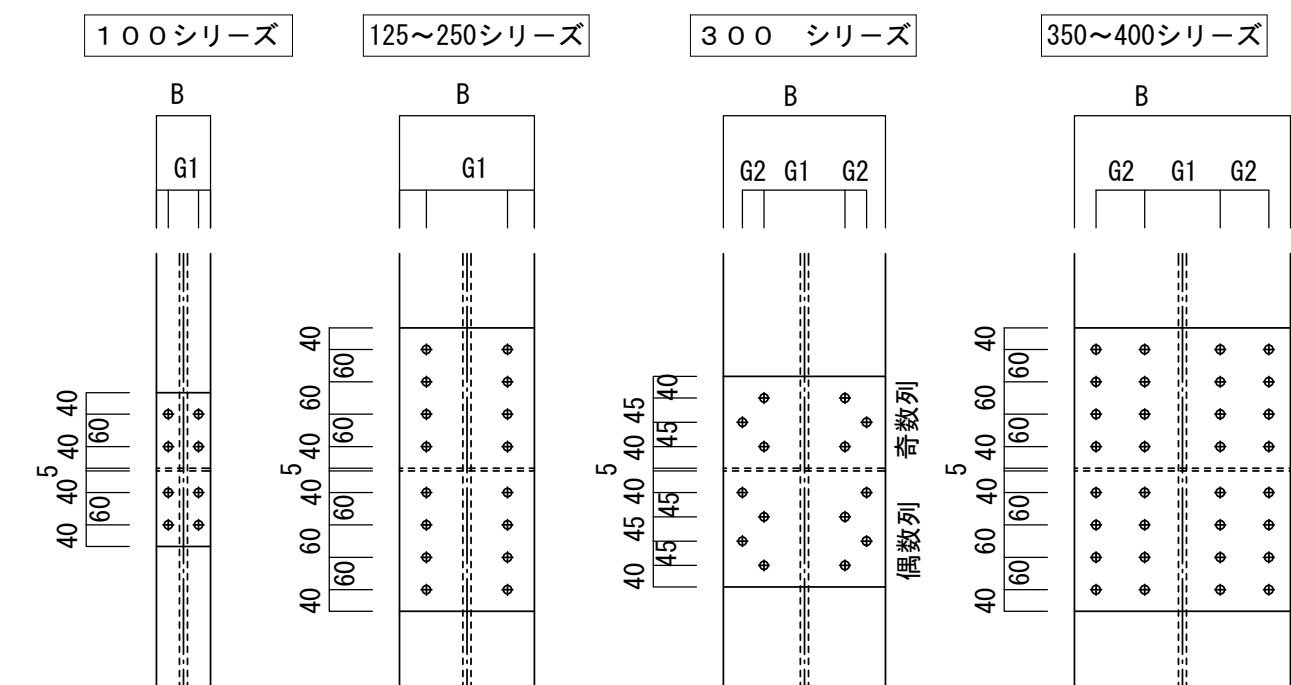


ハンチ勾配は普通 1：4 程度であるが構造図による

Ft1-Ft2
Wt1-Wt2 ≥ 1mm のときフィラープレート併用のこと

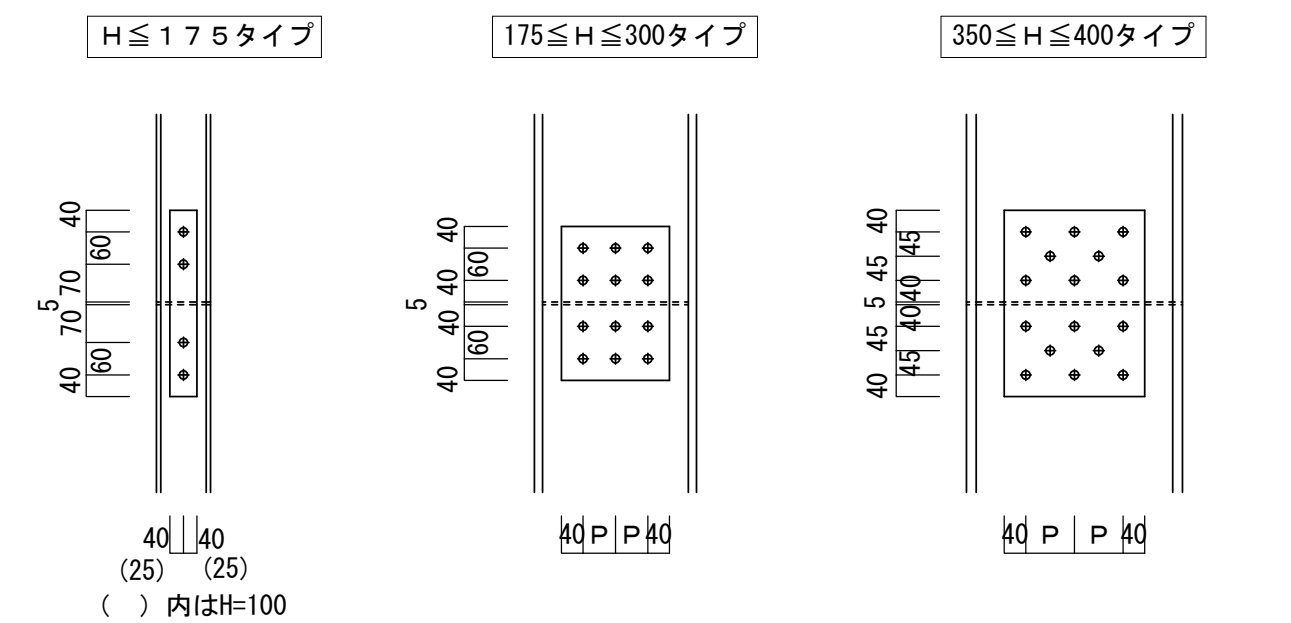
（５） 柱 継 手

a) フランジ継手

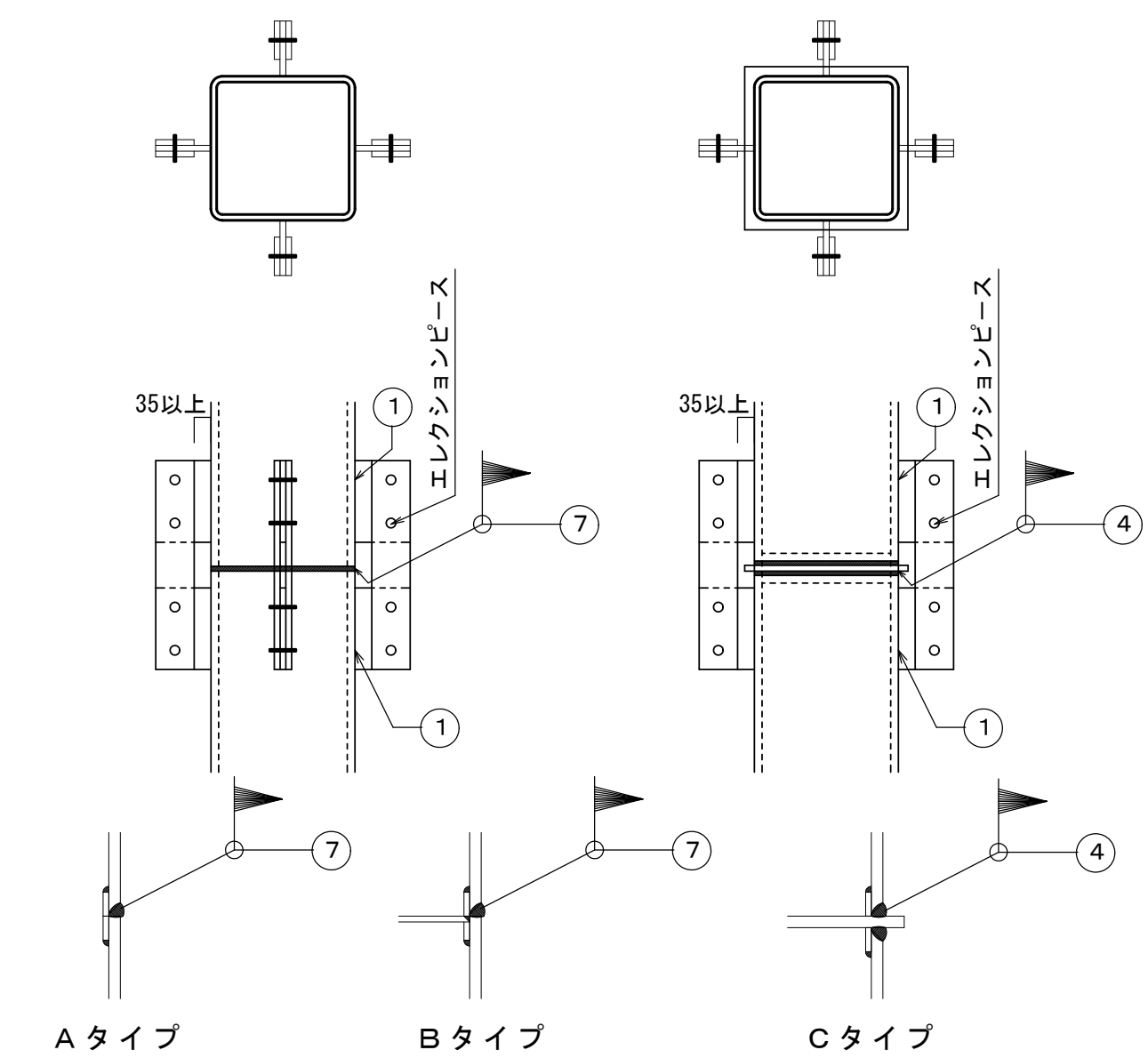


H形鋼 フランジ幅	高力ボルト使用区分			フランジゲージ		フランジ添板幅		備 考
	M16	M20	M22	G1	G2	外 側	内 側	
100	○	△	△	5.6	10.0	10.0		
125	○	△	△	7.5	12.0	4.5		
150	○	△	△	9.0	14.5	5.5		
175	○	△	△	10.5	17.0	6.5		
200	○	△	△	12.0	19.5	7.0		
250	○	△	△	15.0	24.5	9.5		
300	○	△	△	15.0	4.0	29.5	10.5	千鳥打ち
350	○	△	△	14.0	7.0	34.5	13.5	
400	○	△	△	14.0	9.0	39.5	16.5	

a) ウェブ継手



c) 現場溶接継手

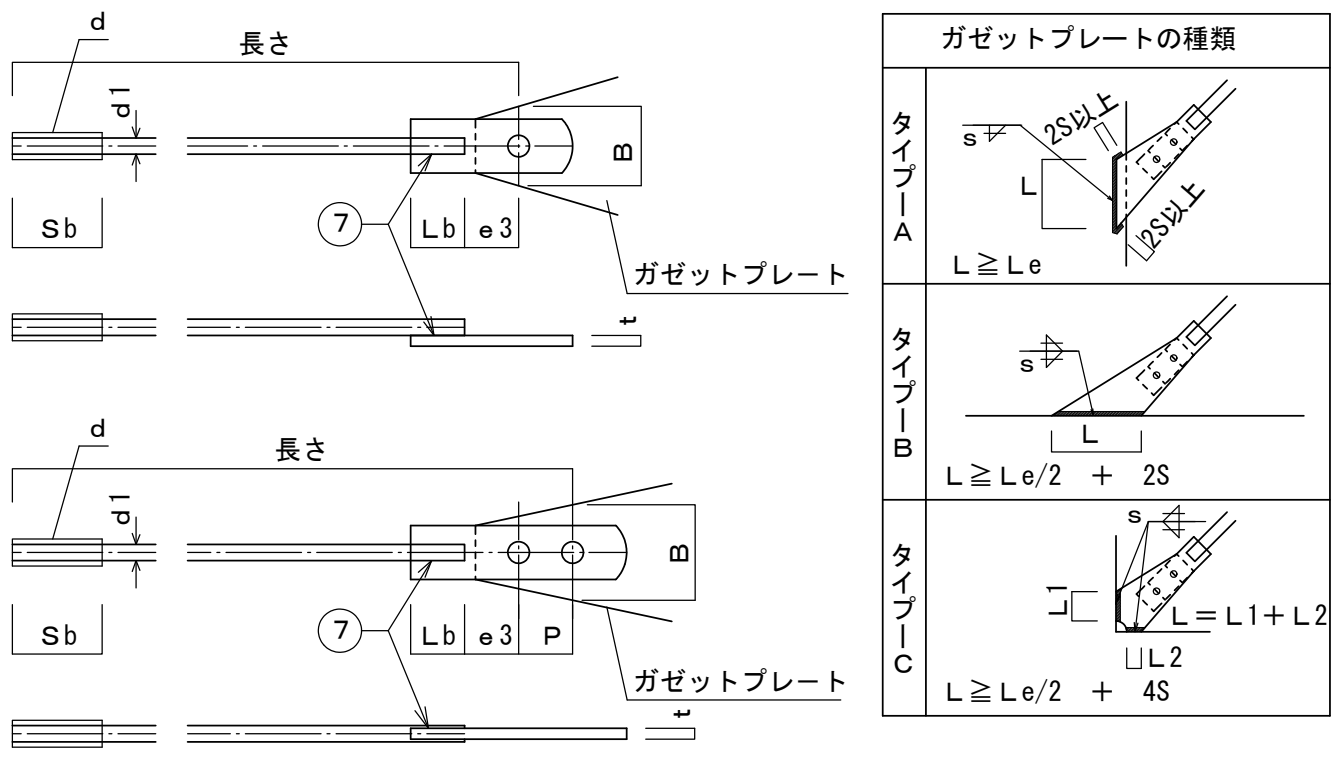


注） Cタイプ使用は柱D＝250mm以下とする
注） 現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う

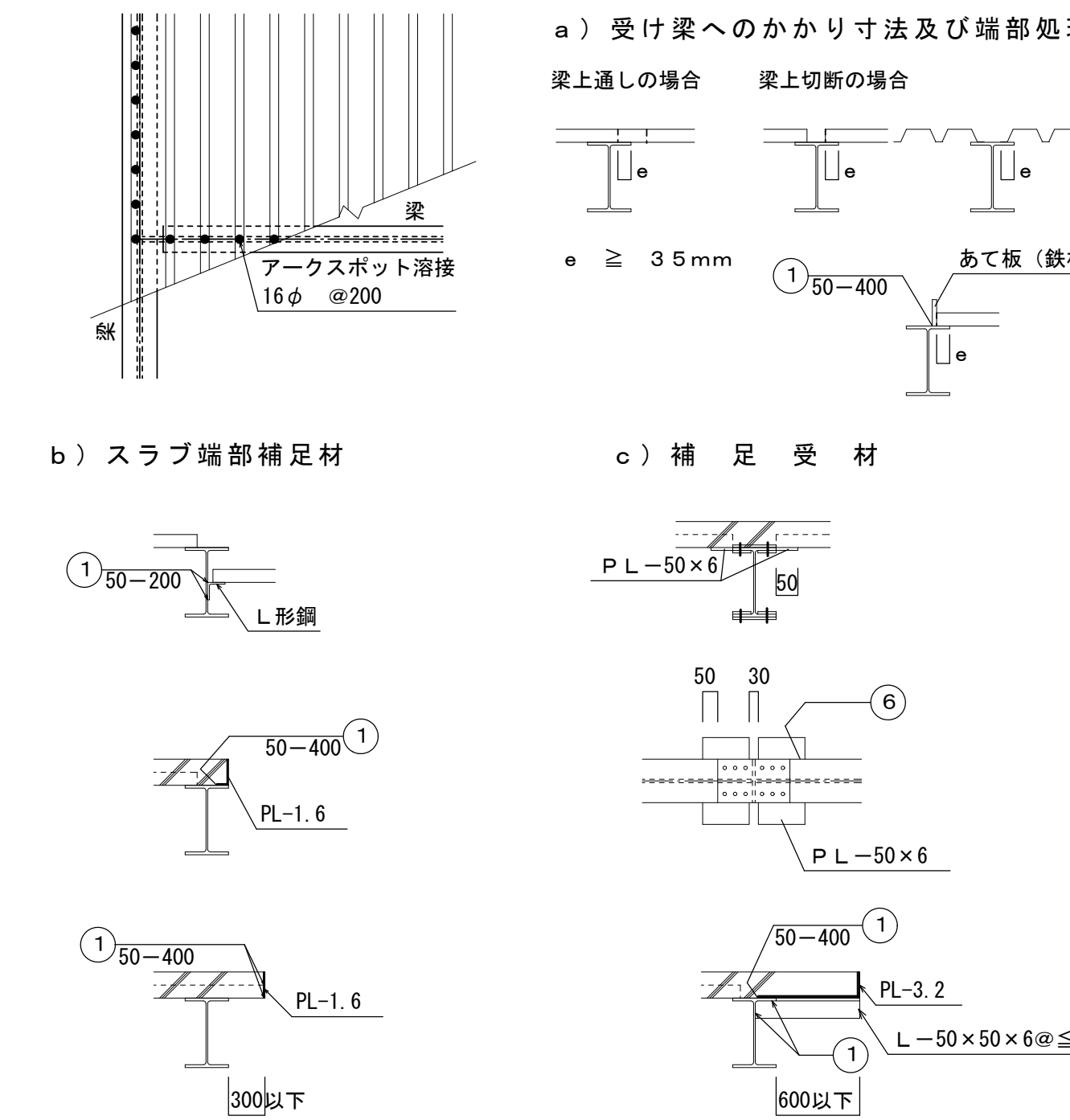
（６） 鉄骨ブレース

ねじの呼び（d）		M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径 d1	最 大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
	最 小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ Sb		100	115	125	140	150	165	175
取付ボルト穴径 許容差+0.5mm		R	13	17	21.5	21.5	23.5	21.5
はしあき（最小） ⁽²⁾ e1		35	40	45	50	50	55	50
切 板 製	へりあき（最小） ⁽¹⁾ e2	22	28	28	34	34	38	38
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
平 鋼 製	へりあき（最小） ⁽¹⁾ e2	19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板 厚 t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト頭から取付ボルト 穴のあき（最小） e3		47	52	59	66	66	73	70
溶 接 長 さ（最小） Lb		40	50	55	60	75	85	85
(2) 取付ボルト	種 類	J I S B 1186 2種高力ボルト（F10T）						
	ね じ の 呼 び	M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本 数	1	1	1	1	1	1	2
	厚さ（gt）×必要幅（B）	6×60	6×70	9×75	9×85	9×85	9×85	12×100
ガゼット プレート	必要溶接長 Le	26mm	36	36	45	56	69	65
	溶接材 JIS	6	6	8	8	8	8	10
	タイプ-A	60	60	80	80	80	80	100
	タイプ-B	42	42	56	56	56	56	70
ガゼット プレート 溶接長さ	タイプ-C	54	54	72	72	72	72	90
	タイプ-D	54	54	72	72	72	72	90

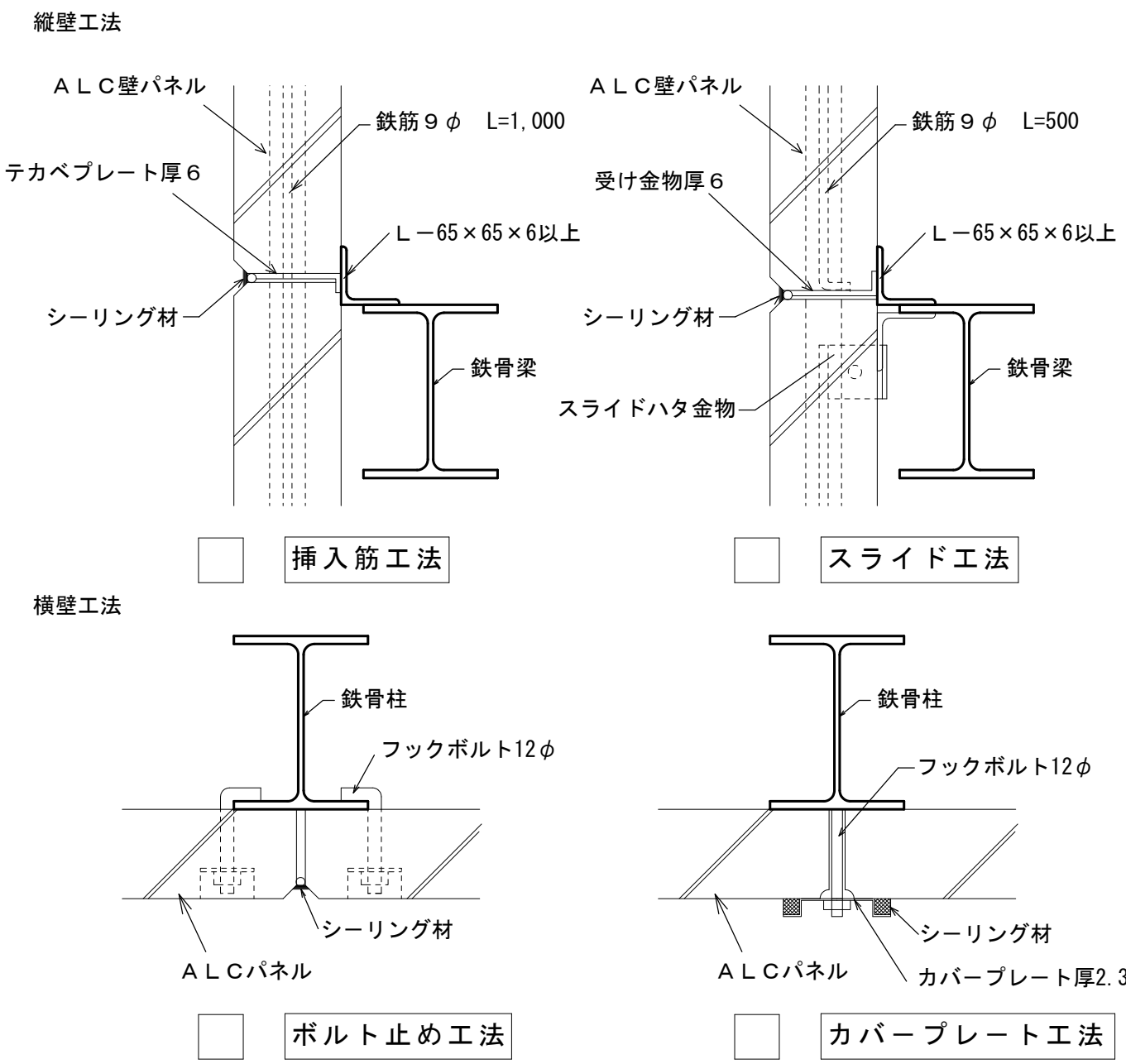
注（１） e1、e2が確保されていれば形状は自由でよい
（２） 羽子板とガゼットプレートの接合は表に示す取付ボルトを使用し、一面せん断（支圧）接合とする



（７） デッキプレート（日鐵スーパーEデッキ、川鉄QLデッキ等については別添付標準図参照）



（８） A L C 板取付要領

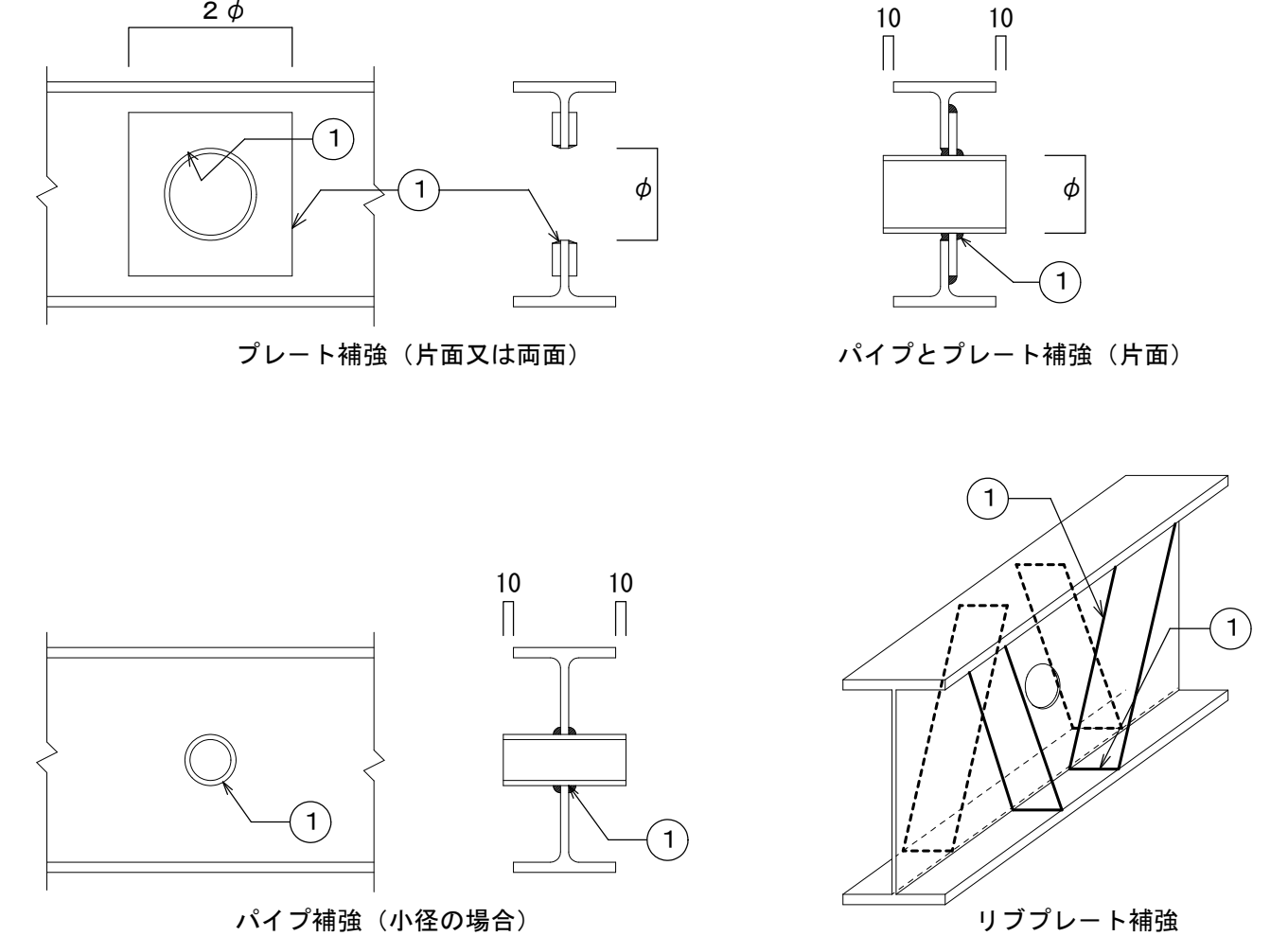


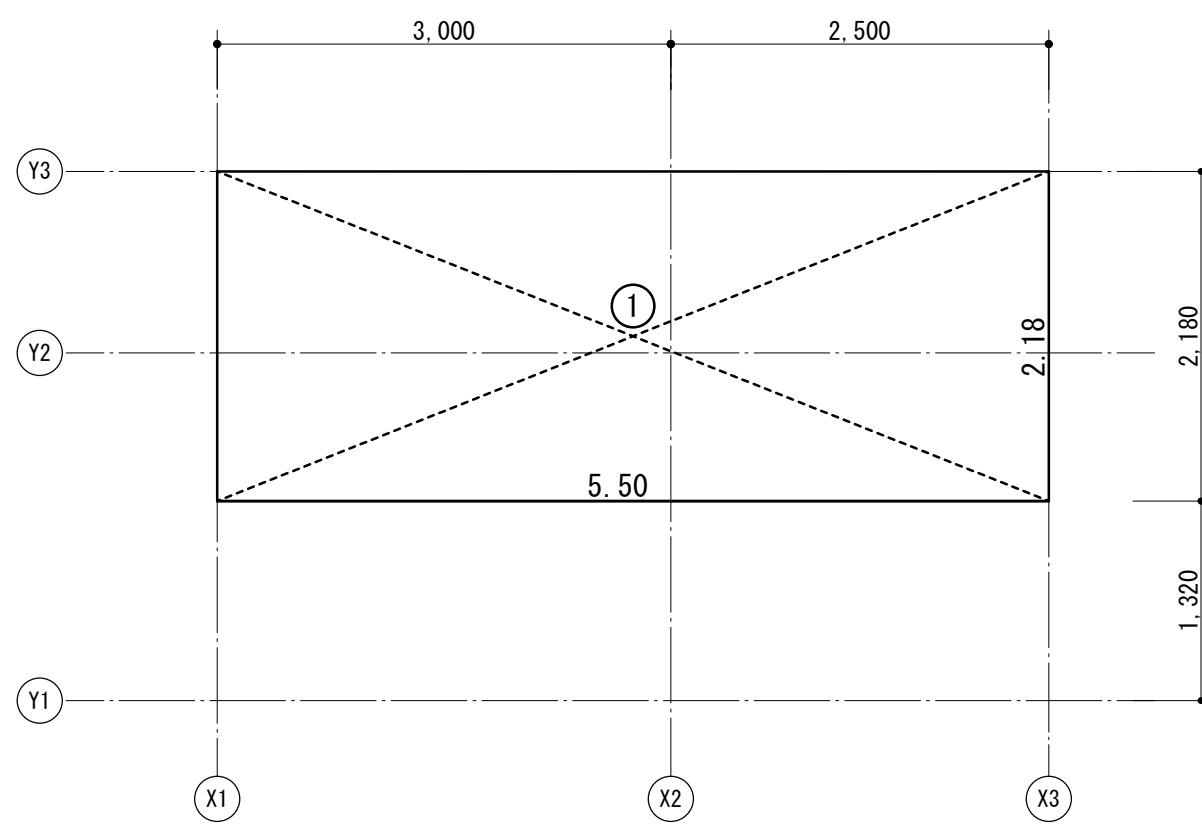
（９） 頭付きスタッド（J I S 1198）

呼び名	ス タ ュ ッ ド 材			
	軸径 d mm	頭径 D mm	頭高さ T mm	溶接後の長さ L mm
φ13mm	13.0	22.0	10.0	50, 80, 100, 130
φ16mm	16.0	29.0	10.0	80, 100, 130
φ19mm	19.0	32.0	10.0	80, 100, 130, 150
φ22mm	22.0	35.0	10.0	100, 130, 150

（１０） 梁貫通補強

●計算で確認された場合は下記の位置、寸法によらずに良い。
●梁端部（スパンのL/10以内かつ2D以内）は避ける
●φ≤0.4D





記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	5.50 × 2.18	11.9900
合計		11.9900
延床面積		11.99
建築面積		11.99

特記事項



山梨建築設計監理事業協同組合

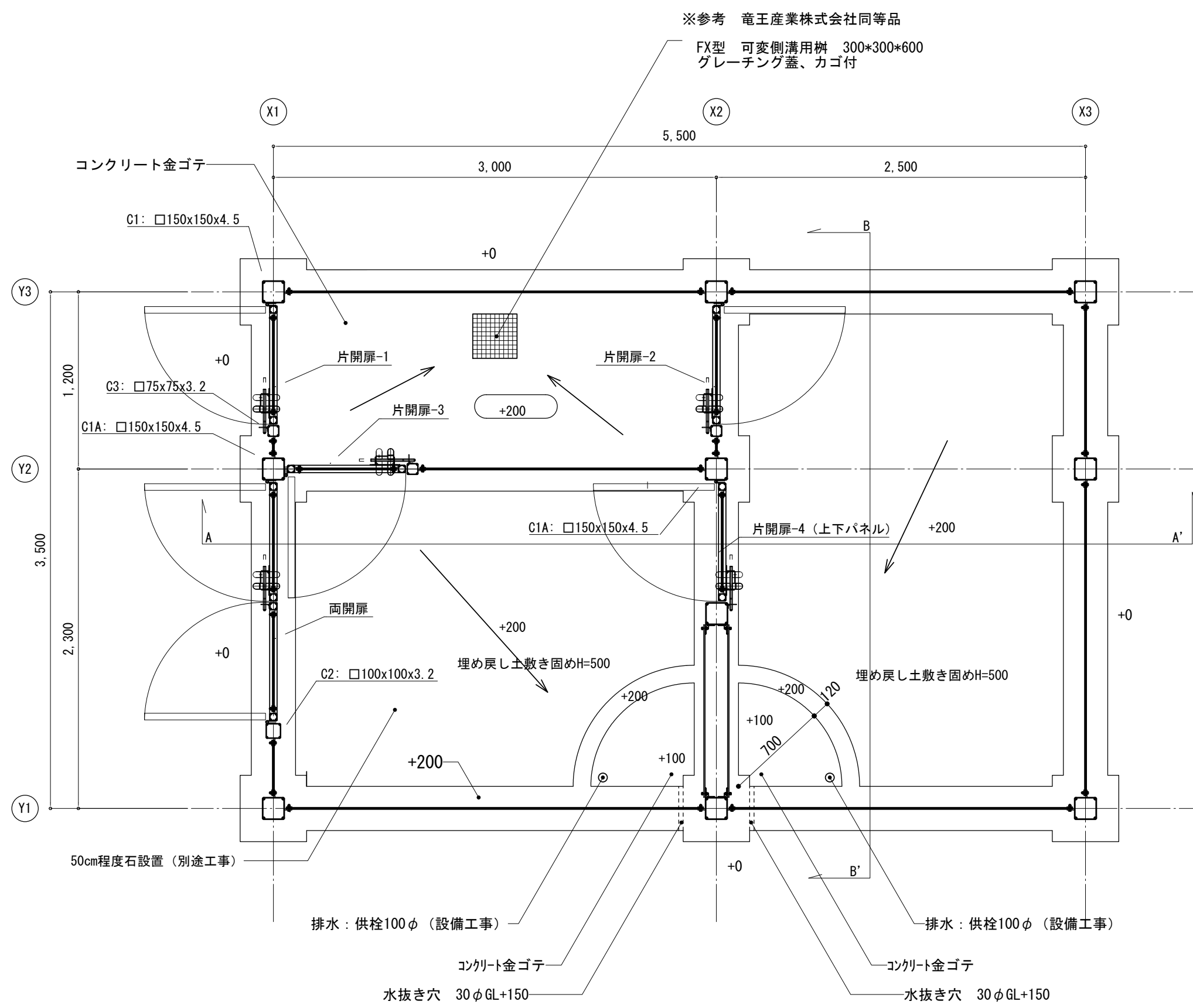
承認	代表設計者	設計担当者	縮尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/50 A3→1/100 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（南—カワセミ舎）
図面名称	建物面積求積表

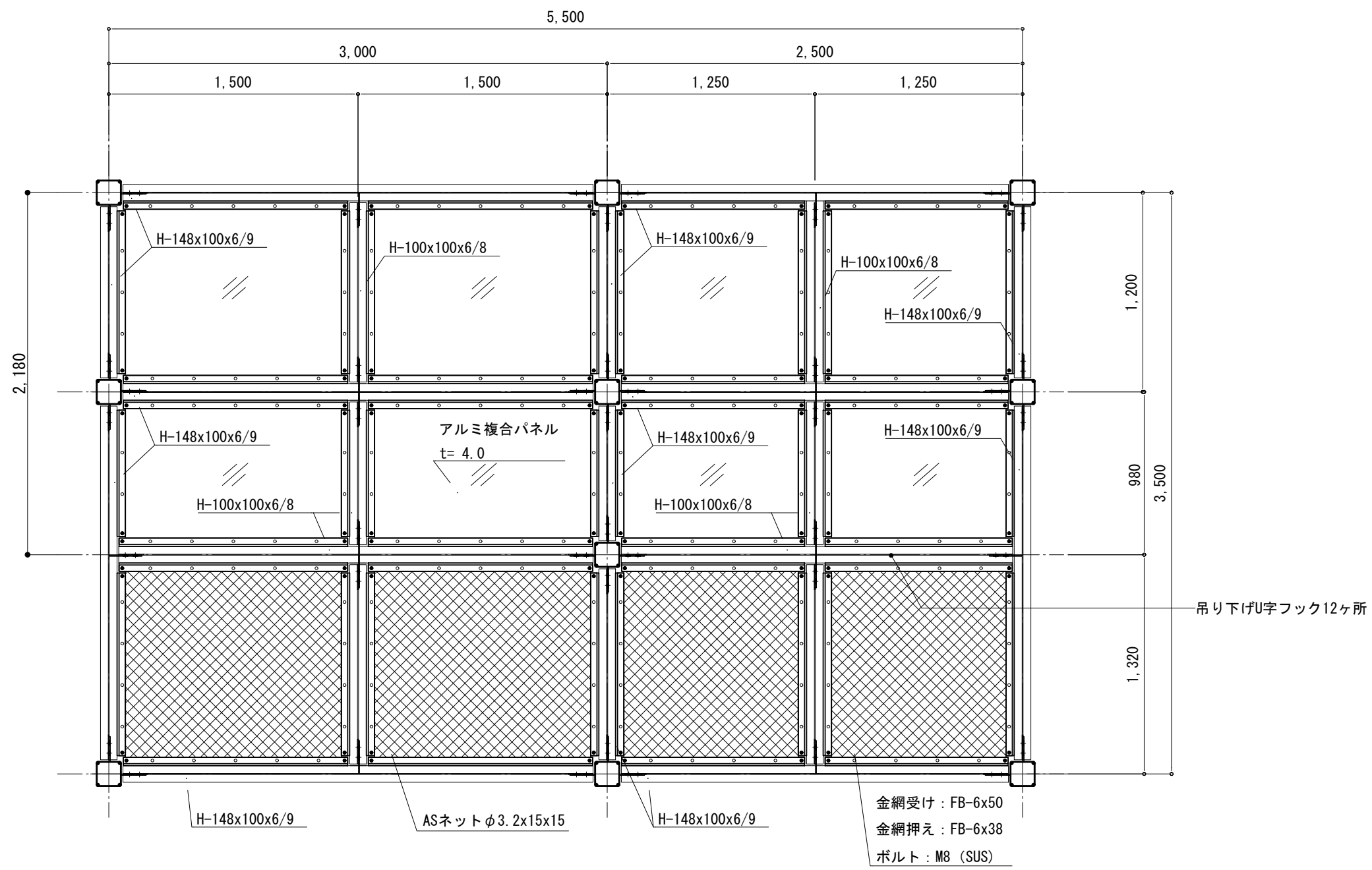
南力 A-09
No.

外部仕上			
部位	仕上	部位	仕上
屋根	屋根1：ひし形金網15*15 線径2.0mm		
	屋根2：アルミ複合パネルt=4.0		
基礎	外巾木：コンクリート打ち放し		
外壁	柱、梁：鉄骨+錆止め+DP塗		
	壁1：ひし形金網15*15 線径2.0mm		
	壁2：アルミパネル		
<div><凡例（塗装記号）></div> <div><div>・EP</div><div>— 合成樹脂エマルションペイント</div></div> <div><div>・EP-G</div><div>— つや有合成樹脂エマルションペイント</div></div> <div><div>・SOP</div><div>— 合成樹脂調合ペイント</div></div> <div><div>・OSCL</div><div>— オイルステイン・クリヤラッカー</div></div> <div><div>・溶融亜鉛メッキ</div><div>A種(6mm以上)・B種(3.2mm以上)・C種(1.6mm以上)</div></div>			

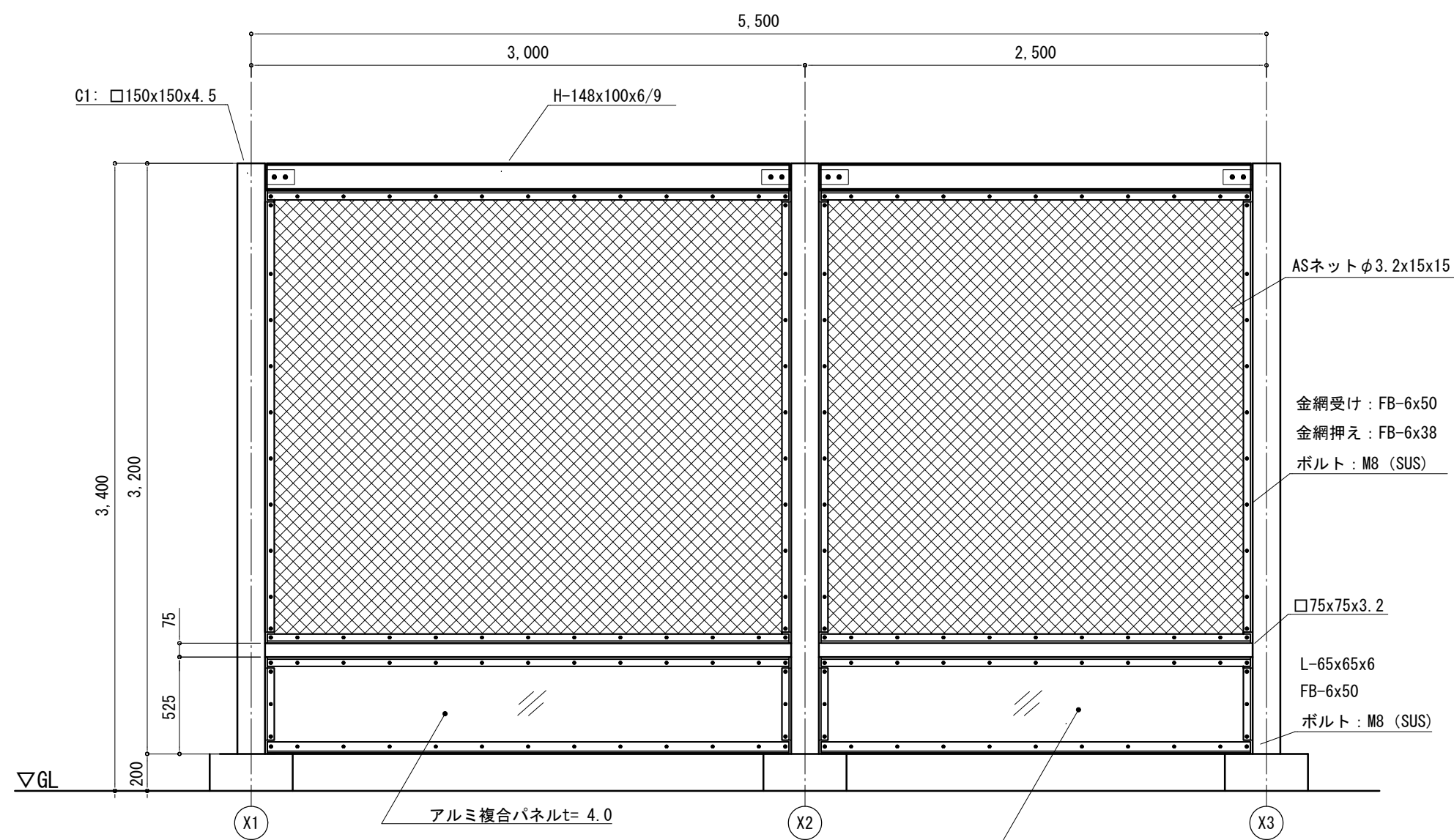
内部仕上									
室名	F L	床	巾木		壁	天井	廻り縁	天井高	備考
				下地	仕上				
作業室	±0	コンクリート金ゴテ仕上		S	ASネットφ3.2x15x15	屋根2：ポリカーボネイトt=2.0		2,800 ～ 3,000	
ｸﾗｲﾌﾞﾙﾙ 1	±0	コンクリート金ゴテ仕上 土 H=200		S	ASネットφ3.2x15x15	屋根1：ASネットφ3.2x15x15 屋根2：ポリカーボネイトt=2.0		2,800 ～ 3,000	
ｸﾗｲﾌﾞﾙﾙ 2	±0	コンクリート金ゴテ仕上 土 H=200		S	ASネットφ3.2x15x15	屋根1：ASネットφ3.2x15x15 屋根2：ポリカーボネイトt=2.0		2,800 ～ 3,000	
<div><凡例（下地記号）></div> <div><div>・C</div><div>：コンクリート</div></div> <div><div>・L G S</div><div>：軽量鉄骨下地 壁：100型 @455、天井：19型 @303・360</div></div>									
<div><内装準不燃・不燃番号></div> <div><div>・石膏ボード t=12.5</div><div>建告第1400号 第1-15</div></div> <div><div>・強化石膏ボード t=12.5</div><div>NM-8615</div></div> <div><div>・防水石膏ボード t=12.5</div><div>NM-1498</div></div> <div><div>・化粧ケイカル板 t=6</div><div>NM-1453</div></div> <div><div>・木目調化粧ケイカル板 t=6</div><div>NM-1453</div></div> <div><div>・不燃石膏ボード t=9.5</div><div>NM-0441</div></div> <div><div>・石膏ボード t=9.5</div><div>OM-9828</div></div> <div><div>・不燃化粧石膏ボード t=9.5</div><div>NM-1864</div></div> <div><div>・化粧石膏ボード t=9.5</div><div>OM-0524</div></div> <div><div>・ケイカル板 t=6</div><div>NM-3522</div></div>									
<div><その他></div> <div><div>・塗装仕上を行うボードの継目部分は、ジョイントテープなどを使用し目地処理を行うこと。</div></div> <div><div>・使用材料は、ホルムアルデヒド放散等級 F☆☆☆☆ とする。</div></div> <div><div>・ステンレスは、特記なき限りH L仕上とする。</div></div> <div><div>・天井下地は、屋外LGS25型、屋内LGS19型とする。</div></div> <div><div>・ライニング下地はLGS100型とする。</div></div> <div><div>・手摺・衛生器具・家具等の取付部は下地補強を施す。</div></div> <div><div>・耐水合板はT 1とし、合板はT 2とする。</div></div> <div><div>・屋内壁外周部・柱型下地は、L G S19型とする。</div></div>									



平面図 S= 1/30
※設計GL=0=261.8

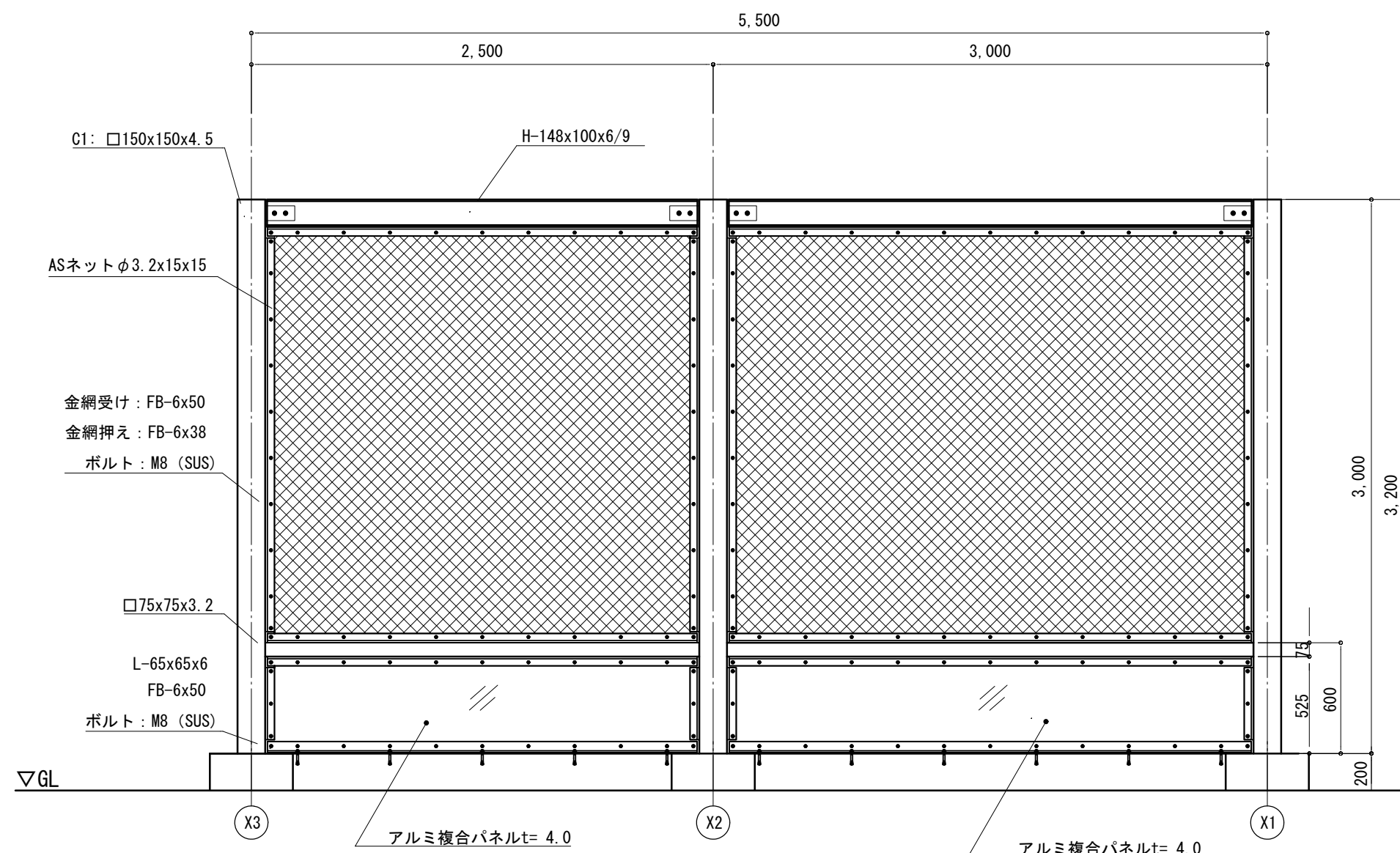


屋根伏図 S= 1/30



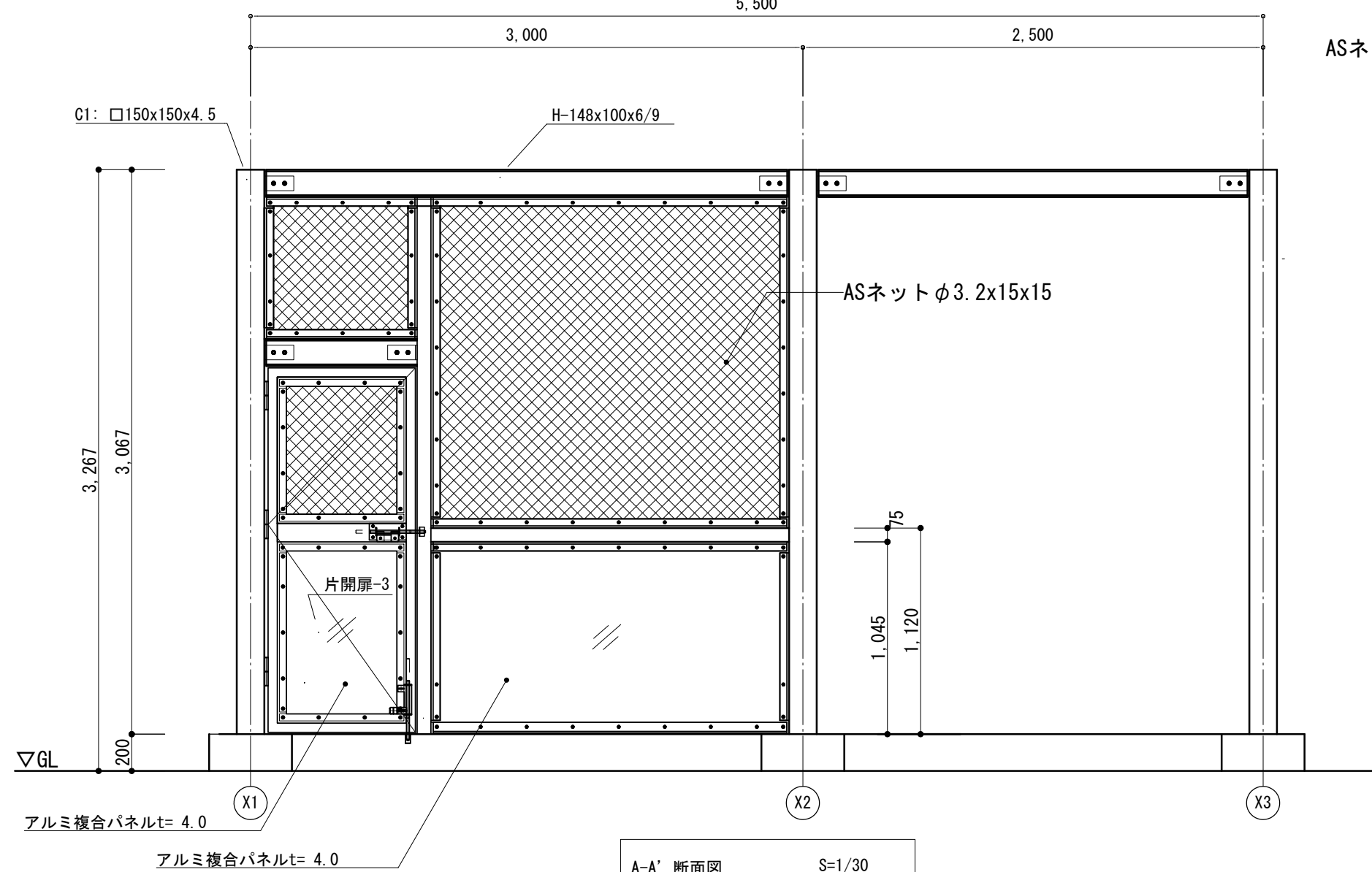
Y1側面図 S=1/30

※柱、梁鉄骨部分：錆止め+DP塗



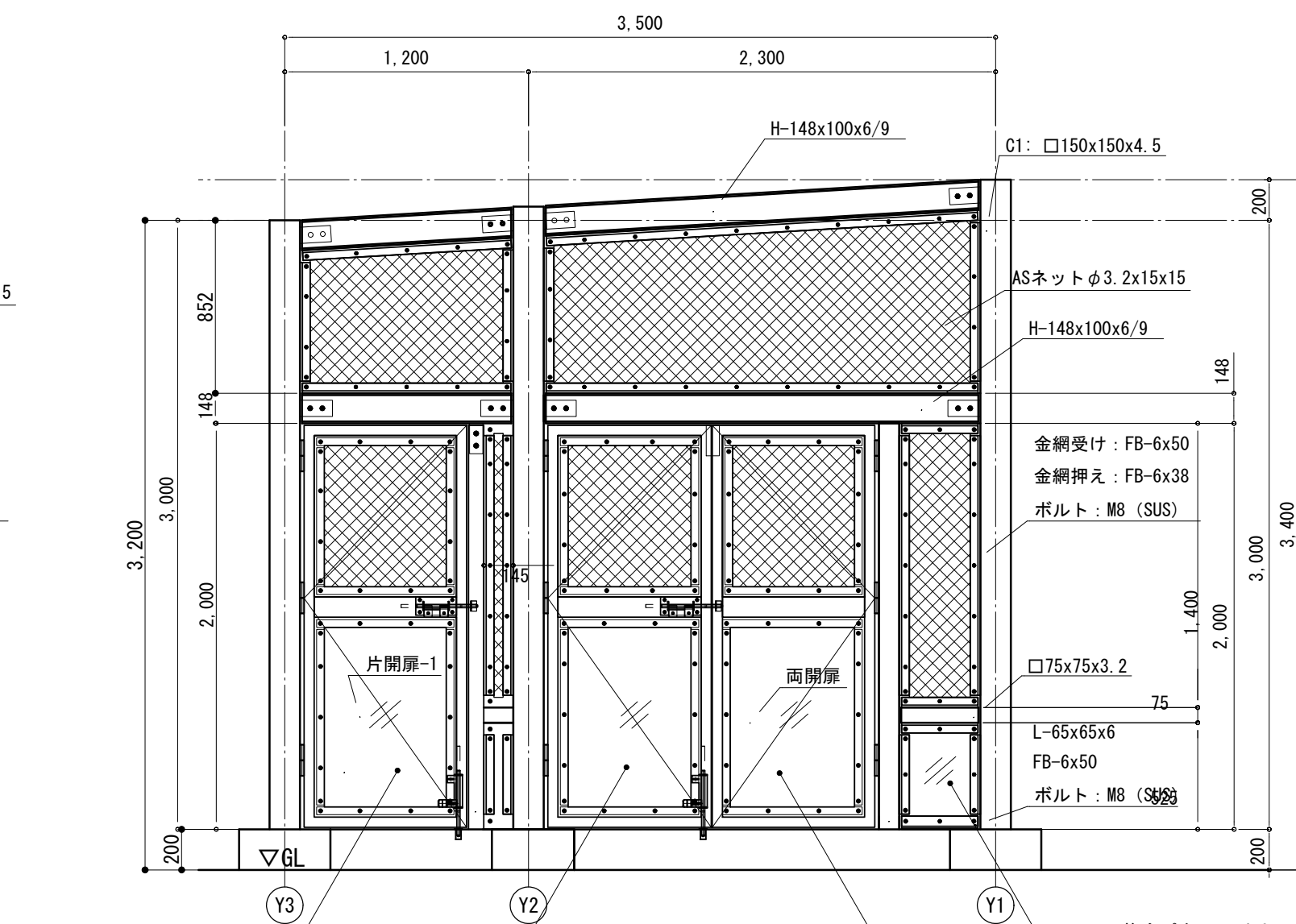
Y3側面図 S=1/30

※柱、梁鉄骨部分：錆止め+DP塗



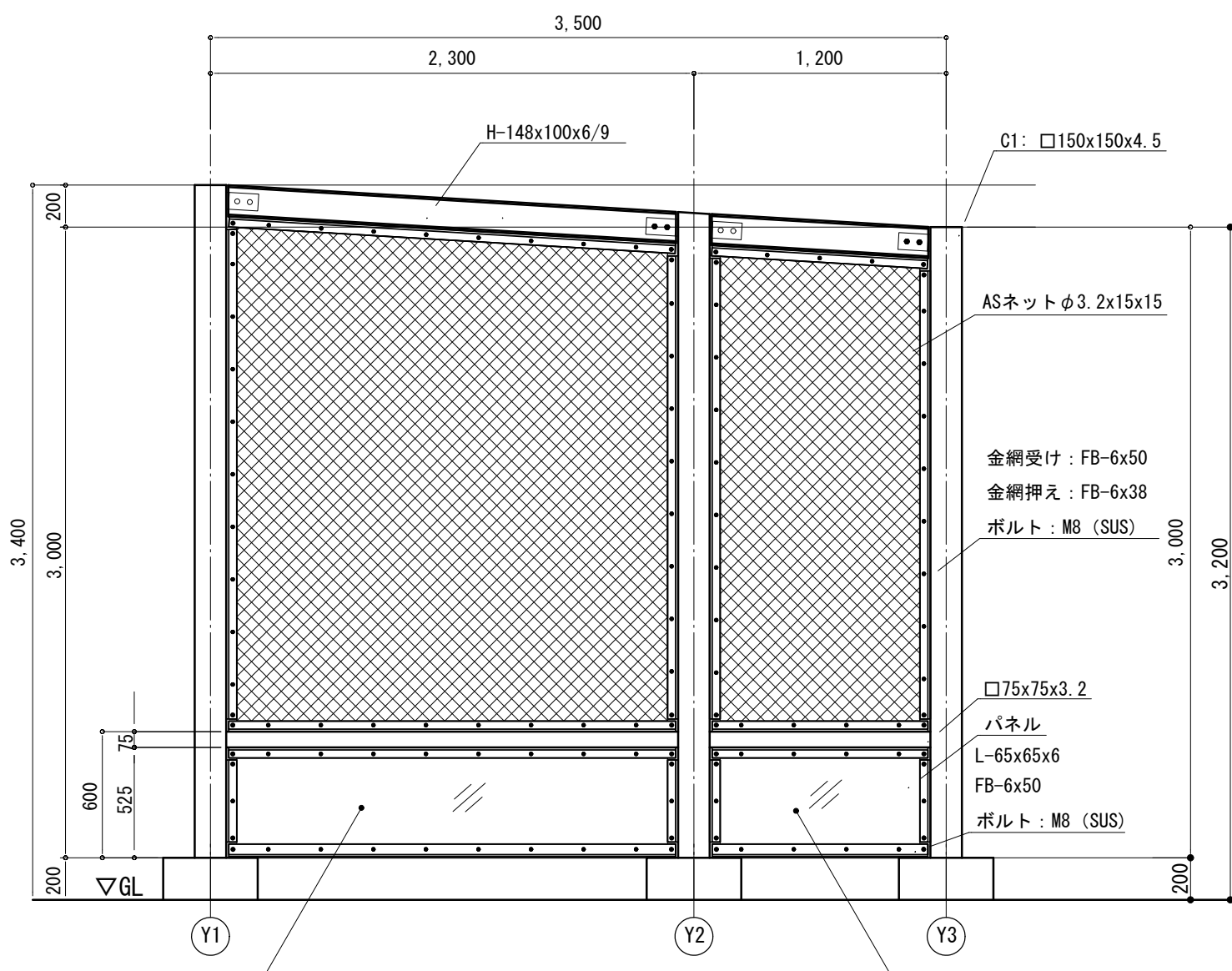
A-A' 断面図 S=1/30

※柱、梁鉄骨部分：錆止め+DP塗



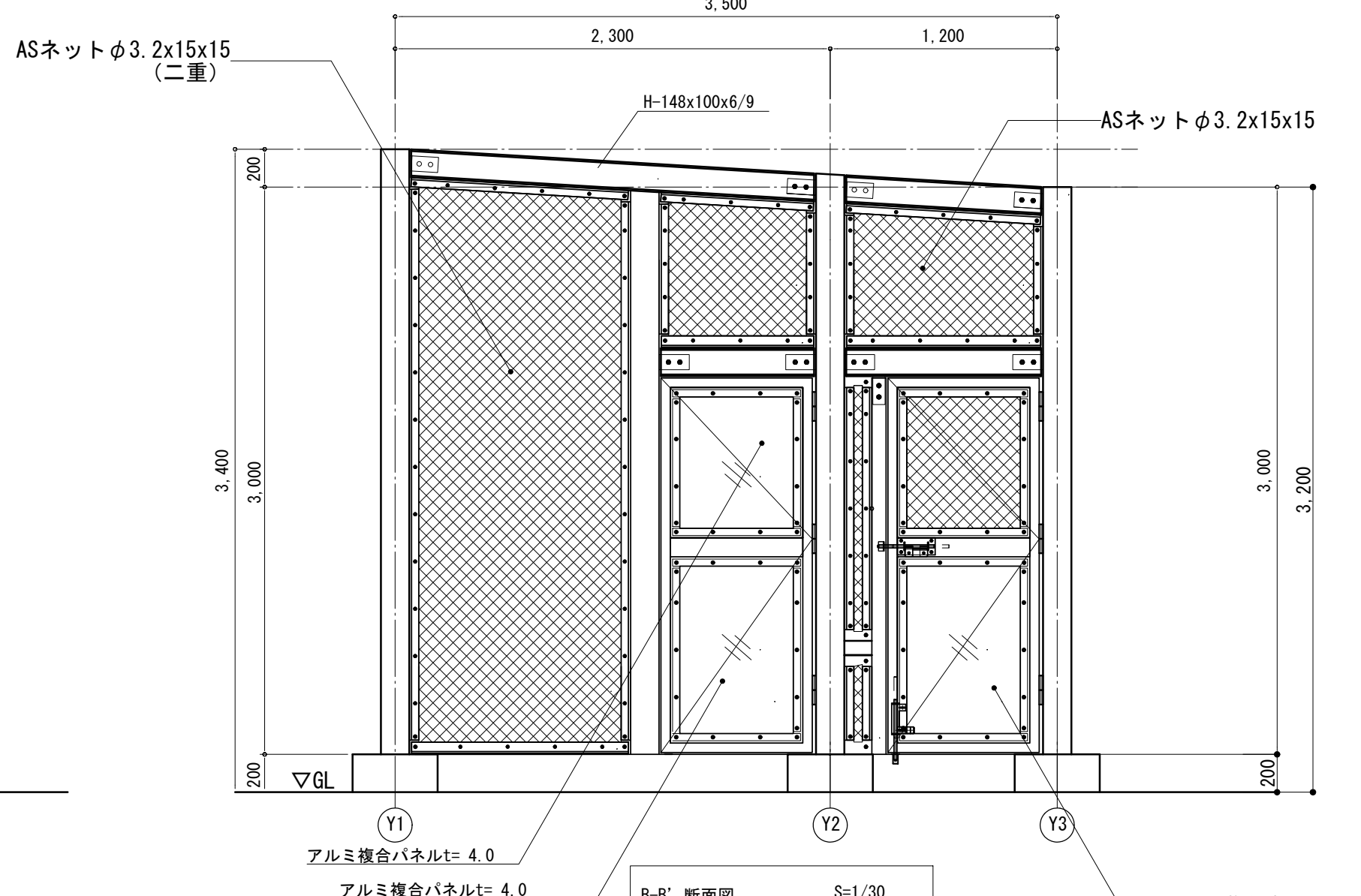
X1側面図 S=1/30

※柱、梁鉄骨部分：錆止め+DP塗



X3側面図 S=1/30

※柱、梁鉄骨部分：錆止め+DP塗



B-B' 断面図 S=1/30

※柱、梁鉄骨部分：錆止め+DP塗

特記事項

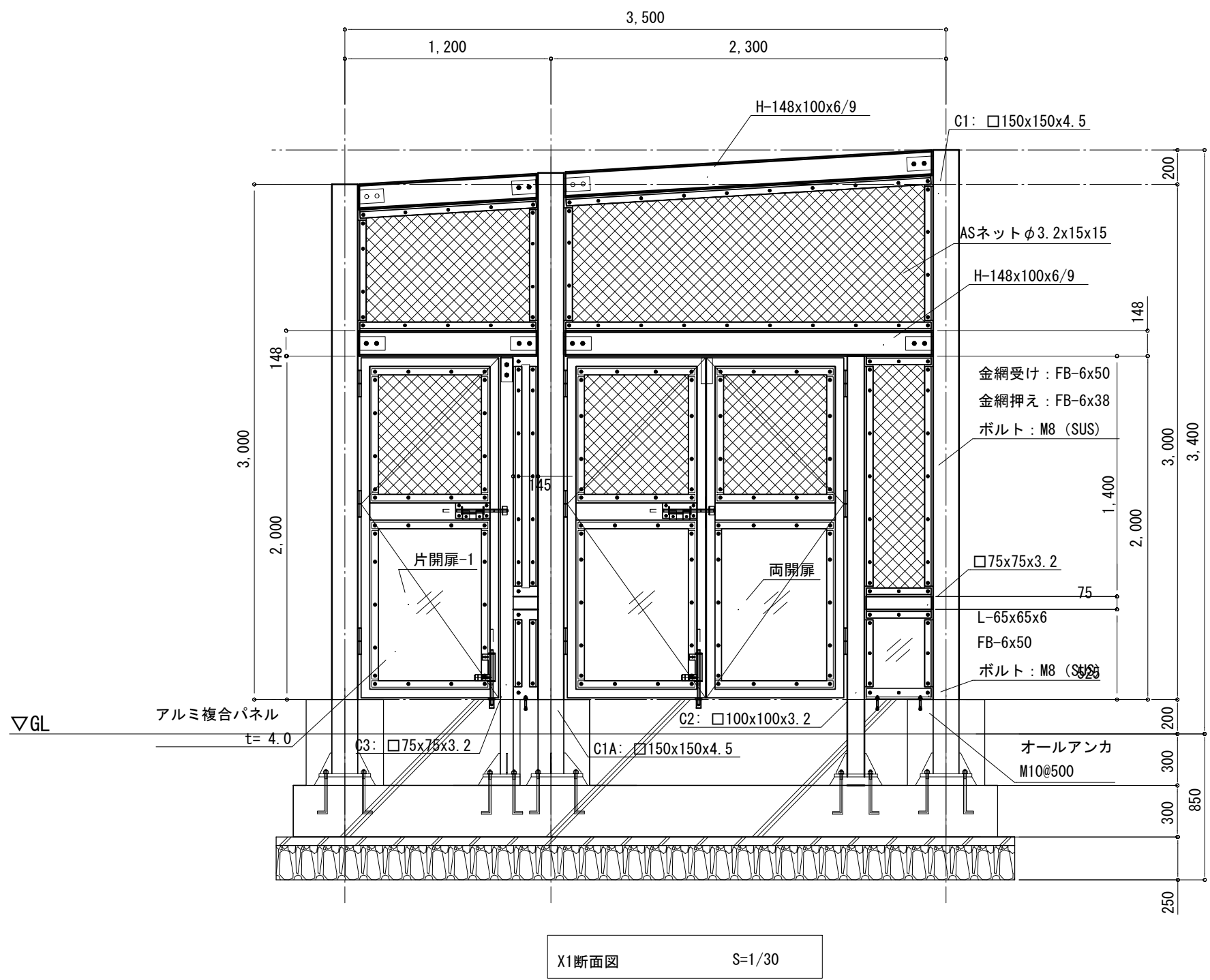
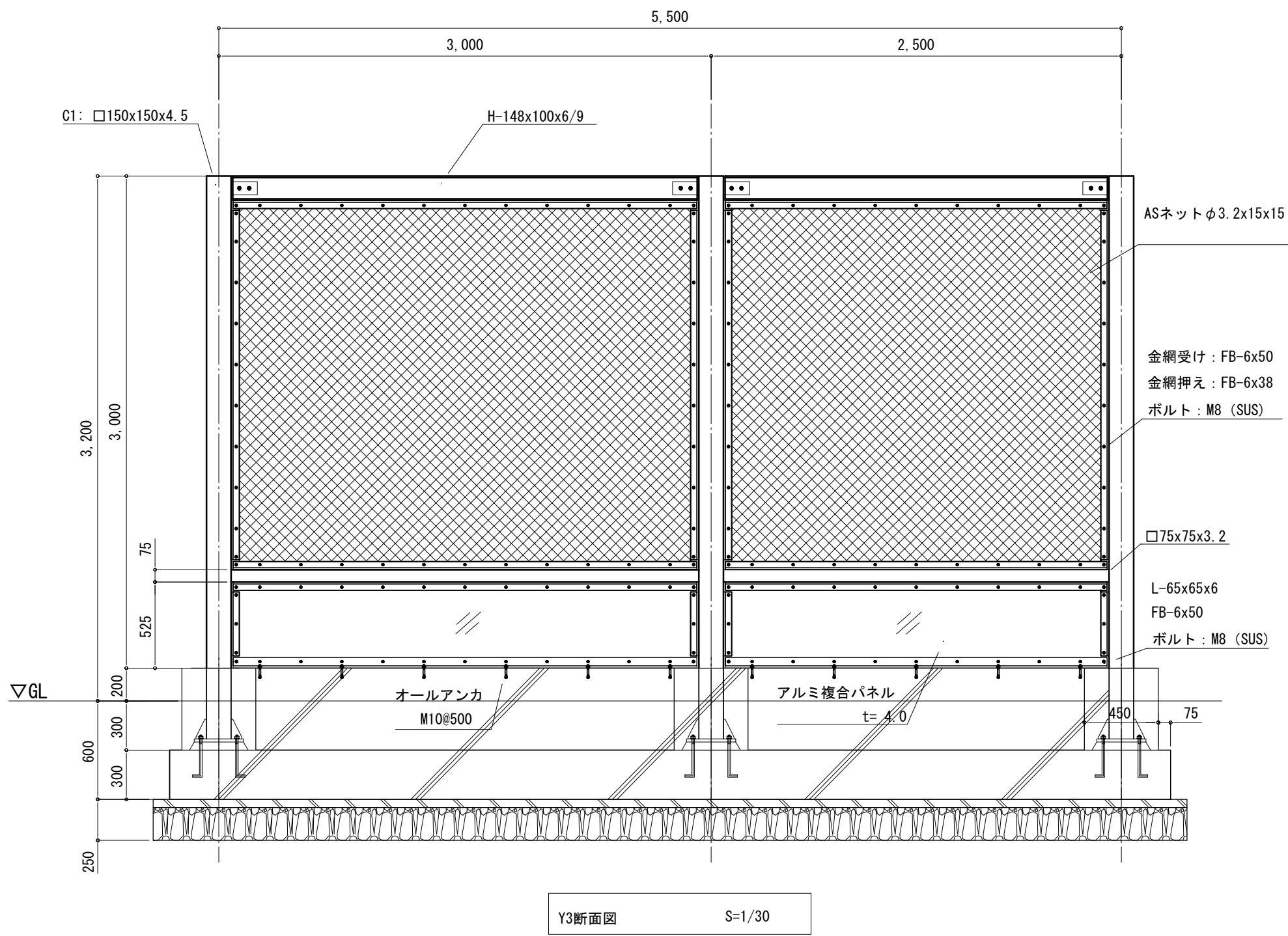


山梨建築設計監理事業協同組合

承認 代表設計者 設計担当者 縮 尺
一級建築士 一級建築士 A1→1/50 A3→1/100
第145710号 第162184号 設計年月日
佐野 正秀 河西 聡

工事名称 遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（南—カワセミ舎）
図面名称 平面図・屋根伏図・立面図

南カ A-11
No.



特記事項



山梨建築設計監理事業協同組合

承認	代表設計者	設計担当者	縮尺
	一級建築士 第145710号 佐野 正秀	一級建築士 第162184号 河西 聡	A1→1/30 A3→1/60 設計年月日

工事名称	遊亀公園附属動物園第Ⅱ期整備（建築主体）工事（南—カワセミ舎）
図面名称	断面図

南カ A-12
No.

